

# 国立国会図書館



館長対談 第8回  
 大阪大学名誉教授 伊井春樹氏

## 古典と現代

英国図書館におけるビジネス支援サービスの取組み

図書館で学ぶ 第1回 韓国関連情報の調べ方

2009.5  
 No.578

# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
03(3506)3301(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。</small>	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。</small>		

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声・FAXサービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

### サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	<small>※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。</small>	
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

- 02 メッゲンドルファーのしかけ絵本  
精巧なつくりこめられたユーモア  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 国立国会図書館 館長対談 第8回  
大阪大学名誉教授 伊井 春樹 氏  
古典と現代
- 11 英国図書館におけるビジネス支援サービスの取組み  
英国図書館ビジネス知的財産センター ナイジェル・スペンサー氏の招へいから
- 16 東洋文庫 その歴史と蔵書
- 20 韓国関連情報の調べ方  
図書館で学ぶ 第1回
- 26 新指定貴重書のご紹介 第44回貴重書等指定委員会報告

18 本屋にない本

- 『街かど美術館アート@つちざわ〈土澤〉 advance カタログ 3rd (2007)』
- 『100年のあゆみ 通史/部門史』

32 館内スコープ

貴重書指定 伝わる知、伝える使命

33 NDL NEWS

- アジア学会(AAS)・東亜図書館協会(CEAL)2009年 年次総会および北米日本研究資料調整協議会(NCC) 会議
- 第16回総合目録ネットワーク参加館フォーラム
- 法規の制定

36 お知らせ

- 調べものに役立つWebサービス「リサーチ・ナビ」の提供開始
- ミニ電子展示「本の万華鏡」の提供開始
- 本の万華鏡第1回「アメリカ大統領の歴史ーあらためて知る220年」
- 絵本ギャラリーで『コドモノクニ』が検索できるようになりました
- 関西館小展示第1回「ダーウィン生誕200年、『種の起源』刊行150年」
- 平成21年度の図書館員を対象とする研修計画
- 第13回資料保存研修
- NDL-OPACで検索できる資料が増えました
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物



# メッゲンドルファーのしかけ絵本 精巧

江口 磨希



図1 “Internationaler Circus” (1998?) 復刻版  
約450もの人物などが描かれています。子細に見ると、日本人がいたり、よそ見をしている人がいたり、虫歯のせいか顔を白い布で縛っている人もいます。

皆さんは「しかけ絵本」という言葉を聞いたことがありますか？ ページを開くと人物や建物が起き上がったり、つまみを引くと別の絵が現れたりするなど、様々なしかけを施した絵本のことです。

しかけ絵本は、早くも13世紀には作られていたようですが、18世紀までは自然科学、天文学、数学、医学など主に学術的な用途で使われていましたので、しかけ絵本というよりはしかけ本というべきかもしれません。19世紀になると、子ども向けのしかけ絵本が数多く作られるようになり、19世紀半ば以降に全盛期を迎えました。その主軸となったのが、イギリスのディーン社、ドイツ系のアーネスト・ニスター社、そしてドイツのメッゲンドルファーです。

なかでも、独創的だったのがロタル・メッゲンドルファー (Lothar Meggendorfer, 1847-1925) で、もともとは雑誌の風刺画家として活躍していました。彼自身はとても無口

な人だったようですが、彼のしかけ絵本はユーモアがあり、本の作りがとても精巧でした。折りたたまれている本を広げていくと、ひとつの立体パノラマになるパノラマ絵本は特に有名で、その代表的なものが“Internationaler Circus” (図1) や “Im Stadtpark” (ともに1887年刊) です。彼の作品は、しかけが1ページに一つだけではなく、二つや三つ、ときには五つも施してあるほか、図2のようにパーツどうしがきつく巻いたワイヤーで留められており、つまみを引くと複数のパーツが動くのが特徴です。

その多くがドイツで製作されたメッゲンドルファーのしかけ絵本は、様々な言語に翻訳され出版されていますが通常の絵本よりも壊れやすいため、古いものはあまり残っていません。“Internationaler Circus”などは収集家の間でも特に人気があり、入手がより一層困難になっているようです。

現在、しかけ絵本の代表ともいえるとびだす絵本は、

# なつくりこめられたユーモア



図2 “Für brave Kinder” (18--?)

つまみが二段構えになっていて、最初につまみを引いたときは、上司に号令をかけられた新兵が膝曲げ運動をし、もう少し引くと、上司は身を乗り出し新兵はさらに深く膝曲げ運動をします(右)。

20世紀に入ってから考案されました。1970年代後半、しかけ絵本はアメリカやヨーロッパで大流行したため、再び盛んに出版されるようになり、19世紀の作品も数多く復刻されました。しかし、メッゲンドルファーを含め、商業的に成功していても評論家や歴史家などによる評価の対象となることはそれほど多くないようです。児童書の歴史の一部を担う資料として、今後の研究が待たれます。

Meggendorfer, Lothar (1847-1925)

*Lothar Meggendorfers Internationaler Circus*. Esslingen:

Verlag von J. F. Schreiber, [1998?]

<請求記号 Y17-B8683 >

*Für brave Kinder*. München: Braun & Schneider, [18--?]

<請求記号 Y17-B5761 >

国際子ども図書館では、メッゲンドルファーのしかけ絵本を約20冊(19～20世紀初頭刊行の原書は7冊)所蔵しています。国際子ども図書館でご覧いただけますが、破損しやすい等の理由から複写や図書館間貸出は行っていません。ご了承ください。

もっと深く知るために

- *Lothar Meggendorfers Spielwelt* / Hildegard Krahe. Hugendubel, c1983. <請求記号 YZ-B600 >
- *Pop-up and movable books* / by Ann R. Montanaro. Scarecrow Press, 1993. <請求記号 YZ1-A12 >
- *Spielbilderbücher : aus der Spielzeugsammlung des SMCA*. c2002. <請求記号 YZ-B615 >
- *This magical book* / prepared by Leslie A. McGrath. Toronto Public Library, c2002. <請求記号 YZ-B1309 >

参考資料

- *The Cambridge guide to children's books in English* / [Edited by] Victor Watson. Cambridge University Press, 2001.
- 『オックスフォード世界児童文学百科』ハンフリー・カーベーター, マリ・ブリチャード 神宮輝夫訳 原書房 1999

第 8 回 古典と現代

# 日本の文学を知ると、その背景にあるものの考え方を知ろうとする、 そうして文化交流になっていく

今月号のお客様 大阪大学名誉教授 伊井 春樹 氏



日本古典文学の研究者であり、3月まで人間文化研究機構国文学研究資料館長として研究活動のほか資料の収集・整理など日本研究基盤の整備に携わってこられた伊井春樹氏に、日本文化の研究において図書館に期待する役割、諸外国との文化交流などについてお話を伺いました。



**長尾** 国文学研究資料館<sup>1</sup>は、資料はどれくらい集まっているのでしょうか。

**伊井** 昭和47年に出発したのですが、最初は何もありませんでした。国立国会図書館のように資料が集まってくる仕組みはないので、和本是東京大学の重複本をもらってきたくらいです。基本的には本を集めるところではなくて、日本や海外にある日本人が著作した本を調査して、マイクロフィルムに収めて日本として永久に保存するという機関として始まっています。今のところ日本人の著作は100万点ある。『国書総目録』<sup>2</sup>にも100万点入っている。それを1年に1万点ずつ調査をする。その半分をマイクロフィルムに収めていくと100年かかる。100年計画ということで国文学研究資料館が始まって30数年経ったわけですが、『国書総目録』に入っていないものが国内でも外国でも相当出てきて、100年では終わらないと。

**長尾** どのくらいまで調査は終わったのでしょうか。

**伊井** まだとてもとても。資料を所蔵していることがわかっていても調査に入ることが認められないところもあります。ほかにも問題があります。マイクロフィルムに収めたものが18万点くらいあるのですが、初期のマイクロフィルムは劣化がひどくて使い物にならなくなっています。

**長尾** フィルムの劣化は大問題です。

**伊井** そこで、まだ文字が消えないうちに別のフィルムにコピーしていくのです。かつて100年もつと言われていたフィルムは30年で駄目になりましたが、今のフィルムは500年もつと言われていきますから100年くらいはもつかなあとと思っています。しかし、初期のフィルムは劣化が進みすぎていてコピーでき

ないものもあります。

**長尾** かといってもう一度オリジナルに戻って撮影し直すのは難しいでしょうね。

**伊井** オリジナルの所蔵者も変わっていますね。

**長尾** 『国書総目録』は今どうなっているのですか。

**伊井** もともと岩波書店から出ていたものですが、著作権を買い取って、デジタル化し、新たに調査して見つかった資料数10万点分のデータを加えたものが検索できるようになっています。

**長尾** もう紙では出版しないでデジタルで行こうという方針ですね。

**伊井** 検索するとどこにあるかがリストで出ます。一番いいのは原資料の写真(マイクロフィルム)まで出るようになることですが。

**長尾** 原資料を見せてもらえなくても目録には載っているものもあるのですか。

**伊井** あります。間違っているものもたくさんあります。

版本で国内に現存しているものは、もともと貸本屋を通じて流布したものが多くて、汚れがかなりあります。海外にも幕末から明治にかけてどんどん出ていきましたが、例えばオランダのライデンの民族学博物館には、印刷されたばかりのように真新しい状態のものが相当あります。買ったものをそのまま見ないでずっと置いてあって、気候がいいので虫もついていないのです。

**長尾** 日本の資料の研究といっても世界的視野でやらないといけませんね。

国立国会図書館も古いものは江戸期の和漢書を中心にして30万点くらいもっていて、もっとデジタル化していかないといけないのです。国文学研究資料館などと連携をして

## 長尾

# 日本の資料の研究といっても世界的視野でやらないといけないですね



Makoto Nagao

1936年三重県生まれ 博士(工学)  
専門は、自然言語処理、画像処理、パターン認識、電子図書館。  
京都大学工学部電子工学科卒業、京都大学総長(第23代)、独立行政法人情報通信研究機構理事長を経て、2007年4月から国立国会図書館長。

### 私の問題意識

伊井先生は私が京大にいた頃からコンピュータの言語処理の関係でお付き合いいただいていた。国文学研究資料館長になられて日本の古典資料をこれからの時代にどのように取り扱い、どのように研究者に提供してゆこうとおられるか知りたかった。また源氏物語研究の第一人者である先生から日本の古典文学と我々現代人との関係といったことについてもお考えをお聞きしたかった。

無駄を省きながらうまく全体でデジタル化を進めていきたいですね。

**伊井** 国文学研究資料館で一番問題視しているのは、デジタル化したときにこれが何年もつのかということです。

**長尾** それは大問題です。新しいコンピュータを入れるたびにデータを書き換えなければならない。これにはコストがかかる。ただ、国立国会図書館ですと、資料は利用のために書庫から取り出してきてまた書庫にしまうという出納の作業があるわけですが、電子化すると画面上で読めるわけですから、出納作業がなくなって待ち時間もなくなる。また現物をコピーするとどうしても傷んでしまうわけですが、デジタル化しておけばプリントアウトすればよい。保存性を考えればマイクロフィルムの方がいいのですが、日常的なことを考えるとデジタルの方がよい。そこで今後は、デジタルを中心にしていく方向に転換しようとしているところなのです。

**伊井** 図書館の宿命として保存と利用の両立というのがありますよね。利用ということになると、どう便利さを追求していくかということになりますからね。

**長尾** ところで先生は源氏物語のご専門ですけど。

**伊井** 去年はちょうど源氏物語という名前が日本の記録に現われて千年という年にあたるということで、源氏物語の千年紀をしようということになったのですね。

**長尾** 現代人が千年前の物語に心を奪われるというのはどういうことなんでしょうか。

**伊井** 千年という時間を超えて現代人に通じるものがあるから、みな読んでいこうとするのでしょうかね。古典というものには千年の時空はないに等しいのではないかと。登場



人物の誰が好きだとか、誰の生き方は自分と同じだとか、同化してしまうわけです。書いた人もすごいが読んできた歴史がまたすごい。(菅原)孝標女が読みふけたのは、源氏物語が世に出て10数年後のことですが、100年経つとそのままでは読めなくなってきた、院政期の頃に初めて注釈書ができるわけです。国宝「源氏物語絵巻」ができたのもその頃で、絵にして鑑賞していく。江戸の末までの注釈書がだいたい600種類くらいあります。それだけたくさんあるということは、何とか原典に迫りたいという人が多かったということでしょう。原稿用紙に直すと2,300枚くらいありますが、松平定信は7回も写したと日記に書いている。平安朝に思いを寄せながら読んでいく人が多いのだろうけれども、必ずしもそのように読まれてきたわけでもない。藤原俊成はこれは和歌の本だ、和歌の勉強のためには源氏を読まなければならないと言っています。時には政治小説としても読まれる。徳川家康は豊臣氏を滅ぼした後で二条城に入って京都の学者を呼んで源氏を読ませる。女性が政治を執っているのかどうか不安だった日野富子には一条兼良が講釈をして、女性は昔から政治に携わっていると源氏に書かれていますと言う。政治や儒教、道徳の本としても使われる。そういう背景があるから、遊女の部屋に源氏物語が置かれていると、学問のある優れた遊女だと言われる。

**長尾** 古典中の古典ですね。そんなふうには読まれた日本の古典というのはちょっとないですかね。

**伊井** ないでしょうね。源氏物語が日本の文化や学問の精神的支柱のようになっている。

**長尾** 本居宣長はどのような接し方をしてい



Haruki Ii

1941年愛媛県生まれ 文学博士  
大阪大学名誉教授  
大阪大学大学院教授、人間文化研究機構理事を経て、2009年3月まで人間文化研究機構国文学研究資料館長。

源氏物語などを中心に、和歌、物語などの平安、中世文学を専攻する。ほかに、海外から見た明治時代の日本、日本文学の国際化などにも努め、FMネットワーク「百万人の源氏物語」、NHKラジオ「古典講読—源氏物語・選」なども担当。

おもな著書に『源氏物語注釈書・享受史事典』（東京堂出版、2001）、『源氏物語論とその研究世界』（風間書房、2002）、『ゴードン・スミスが見た明治の日本』（角川学芸出版、2007）、『一千年目の源氏物語』（思文閣出版、2008）、『世界が読み解く日本』（学燈社、2008）、『源氏物語を読み解く100問』（日本放送出版協会、2008）など多数。

伊井  
古典というものには千年の時空はないに等しいのではないかと

たのでしょう。

**伊井** 宣長の場合は、それまで源氏物語を「ためにする書」として読んでいたのを、物語として読まなければならない、「もののあはれ」を読みとらなければならない、という文学論を打ち立てたわけです。現代の人は、現代語訳を読んだりマンガになったものを読んだりして共感するところがある。単なる恋愛物語ではなくて、普遍的な人間の英知のようなものがあるのではないかと。アーサー・ウェリー (Arthur Waley) の翻訳を正宗白鳥が読んで、こんなに面白いのかと言ったという話がありますが、ドナルド・キーン (Donald Keene) やサイデンステッカー (Edward George Seidensticker) もこの翻訳を読んで、日本の古典の世界に入っていった。

**長尾** 日本の古典といわれているものは世界的に見ても通用するものが多いんでしょうね。

**伊井** 風俗習慣の違いがあっても人間性という点では普遍性があるのではないかと。

**長尾** そういう意味でもっと日本のものを世界に発信していければいいんですけども。

**伊井** 日本の文学を知ると、その背景にあるものの考え方を知ろうとする、そうして文化交流になっていくと思うんですね。

**長尾** 海外で日本文学を研究する人は増えているのでしょうか。

**伊井** なかなか難しいところです。例えばオーストラリアは、かつて日本研究が盛んだったところですが今では衰退してきていて、いまや中国一辺倒です。日本への関心は経済事情に左右されていて、日本の古典や近代文学を研究している人は少なくなりました。中国の場合は国策として中国語の教師を派遣したり孔子学院を作ったりしています。

**長尾** 中国はアフリカに図書館を建てて図書や移動図書館を寄付したりと政策的にやっていますからね。

**伊井** 経済的な事情もあるようですし。

**長尾** 日本の文化の価値は経済的価値だけでは計れないと思うのですが。

**伊井** 日本政府としてどういうサポートがありうるのかと考えて、いま文部科学省と話をしているのは、海外にある日本の資料を現地の人と一緒に研究すればよいのではないかと、ということです。現地の研究者は孤立していて、近世文学の翻訳もあるロシアのタチアナさん (Татьяна Львовна Соколова-Делюсина [Tatyana Sokolova-Delyusina]) は、私がいなくなると日本文学研究はなくなってしまうとおっしゃっているほどです。交流がないといけないのですが、いまは個人とのつながりに頼っている状態です。

**長尾** 奨学金を出すとか、冠講座を置くとか、いろいろやることはありますね。

**伊井** 例えば外国の大学に長尾先生に講演に行っていただくと関心をもつ学生が出てくるでしょう。外務省の方にも言ったことがあるのですが、キーンさんやサイデンステッカーさんを10人作れば、世界に日本文化を広げてくれるでしょう。現在、日本研究をやっている中堅どころはだいたい彼らの教え子なのです。

**長尾** ヨーロッパの関心はどうでしょうか。

**伊井** フランスはコレージュ・ド・フランスですとかフランス言語文化研究所 (INALCO: Institut National des Langues et Civilisations Orientales) とかありますが、イギリスはずいぶん衰退しています。

**長尾** イギリスの大学はサッチャー改革以

来ずいぶん変わってしまいましたね。国文学研究資料館としては、海外戦略はおもちゃなんでしょうか。

**伊井** いろいろと学术交流協定は結んだのですがお金がないので…向こうの人を呼んだり、こちらの人が行ったりするといのですが。

学術審議会の分科会で、人文学と社会科学の振興についてどう施策していけばいいかという議論をずっとしてきたのですが、人文学は自然科学とは別の価値観をもっている、それに国としてはもっと関与すべきである、という答申を出しました。<sup>\*</sup>日本文学研究を世界に広げていくときにわれわれの力ではどうしようもない。人間文化研究機構は五つの機関で資源を共有しようというもので、それぞれが膨大なものをもっています。例えば国文学研究資料館では江戸時代の挿絵のキャラクターをデータベース化していて、源義経と入力すると何の本にどういう義経像が出ているかがわかるので、出版社によく利用されています。5機関で資源を共有化してキーワードを付ければ、それぞれのキーワードで国立歴史民俗博物館には何がある、国際日本文化研究センターには何がある、ということがわかる。これを国立国会図書館と結んで一緒にやっていく、それを世界に広げていくと大きく違ってくるでしょう。

**長尾** 乱暴な言い方ですけど、例えば古典籍を本文も含めて全部コンピュータに入れて、いろいろな検索を可能にすることによって研究がずいぶん進むということはないですか。例えばこの単語はどこでどういう使い

方をしているか、とか。

**伊井** それはずいぶん違ってくるでしょう。古典の場合には単独では入っているものもありますが、串刺しにはできていない。いずれはそうせざるを得ないと思いますね。かつては全国を調査に歩いていたのですが、そういう手間は省けることになる。国文学研究資料館は各地の資料をマイクロ化して紙焼きを製本して並べているので便利ですが、ただ、今の若い人は現物を見なくなりました。何でも見ようということではなくて、目的のものだけを、しかも写真にしたものだけを取り出して見る、そしてデータを取る、というようになってきている。

海外にある資料を含めて、在外公館ですとか国際交流基金の事務所も活用して、そういうデータを集めるような仕事を国立国会図書館でやっていただけるとありがたいのですが。

**長尾** 世界中に日本の資料がそれだけ出ているということでしょうか。

**伊井** はい。シーボルト (Philipp Franz von Siebold) やフェノロサ (Ernest Francisco Fenollosa) が持って行ったものはもちろん、私に関心がある明治の写真が、ボストン美術館にたくさんあります。絵葉書ができるようになって、「これが日本です」と言って撮った写真をどんどん輸出したのですが、日本になくなってしまったが海外には保存されているというものがずいぶんあります。

**長尾** 戦後にGHQ (連合軍総司令部) が検閲した資料がメリーランド大学に収められてプランゲ文庫といって残っているのですが、戦後すぐの出版物がかなり残っている。それをマイクロフィルムに撮影して集めているのですが、年間に撮影できる量が限られ

<sup>\*</sup> 科学技術・学術審議会学術分科会。人文学及び社会科学の振興について (報告) - 「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道一。平成21年2月9日



ているのでなかなか進みません。

**伊井** 戦後の日本という点では、キーンさんが関心をもっていたのは、1945年8月15日に日本人が何を考えていたのかということで、永井荷風だとか当時の日本人の日記を集めて研究したものがああります。そういう日本文化史を面白くするような資料を集める役割は国会図書館では担えないのでしょうか。

**長尾** 私はポスターなども含めて何でも集めるように言っているのですが、うちの図書館は冊子体になっているものが中心なのですよ。

**伊井** 国文学研究資料館では明治から昭和初めまでの折り込みの広告を何千枚もいただいたのですが、日露戦争の頃の広告など入っていて、いろいろな情報が出てきます。ほかにも、実業史博物館を作ろうとして渋沢栄一が集めたコレクションがあります。こういったものをほかの情報と結びつけると付加価値が出てきます。そういったネットワークの中核に国会図書館がなれないでしょうか。

**長尾** 私としてはそういったところをやりたいと思っています。本当の日本の文化は本だけではないですから。民博（国立民族学博物館）ではありませんが「がらくた」まで集める精神をもたないと。

**伊井** 源氏物語も古典文学だけではない。それに影響を受けた和歌、能、歌舞伎、いま

はオペラやマンガ、交響曲まであります。日本の文化をさまざまな形で形成しているのです。

**伊井** 図書館のイメージをもっと変えなければいけない。図書館で演劇をやったりオペラのコンサートをしたり。それに関連して本にどう親しむのか、という仕掛けを作っていないと、これから日本の文化がやせ細っていくという思いが深刻にします。

**長尾** 図書館もそういう文化活動がもっとできるよくなるべきですね。

**伊井** もう一つは気風です。気風を変えていかないと。

**長尾** お寒い話ばかりです（笑）。今日はどうもありがとうございました。

対談を終えて

国立国会図書館に対する先生のご期待の大きさに驚くとともに、これからの図書館の目指すべき一つの方向をお示しいただいたように思う。日本の古典籍の豊富な内容は、国内はもとより国外にももっと知られる必要がある。そのためには古典籍がもっと便利に利用できる環境を作ってゆくことが大切であると感じた。情報処理技術の貢献できる場所が多いのではないだろうか。先生もそういう方向に期待しておられるように感じた。

（長尾）

## 用語解説

### 1. 国文学研究資料館

昭和47（1972）年創設。平成16年4月、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる。国内外に所蔵されている日本文学および関連資料を専門的に調査研究し、撮影・原本による収集を行う。平成20年3月立川市に移転。人間文化研究機構は、国文学研究資料館のほか、国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所および国立民族学博物館の5研究機関によって構成される。

### 2. 国書総目録

慶応3（1867）年までに刊行された日本人の著作について国内の所蔵情報を記録した総合目録。1963（昭和38）年—1976（昭和51）年岩波書店刊。その後増訂版が刊行され、現在は国文学研究資料館で「日本古典籍総合目録」データベースとして提供している。

（この対談は2009年3月3日に国立国会図書館で行われました。）



## 英国図書館における ビジネス支援サービスの取組み

英国図書館ビジネス知的財産センター ナイジェル・スペンサー氏の招へいから

### 1 はじめに

国立国会図書館では、平成 20 (2008) 年 12 月 15 日から 17 日にかけて、英国図書館ビジネス知的財産センター<sup>1</sup> (以下、BIPC) から研究ビジネス開発マネージャーのナイジェル・スペンサー氏<sup>2</sup>を招へいし、図書館のビジネス支援サービス<sup>3</sup>をテーマに業務交流を行いました。BIPC は、英国図書館 (以下、BL) のビジネス支援サービスを提供する閲覧室です。スペンサー氏の講演「英国図書館におけるビジネス支援サービス」と科学技術・経済課職員との意見交換の中から、BIPC のビジネス支援サービスの現状について紹介します。

### 2 BIPC の設立

2006 年 3 月、BIPC は中小企業や起業家の支援を目的として開室しました。2003 年にロンドン開発公社 (LDA)<sup>4</sup> が中小企業や起業家の支援のための情報センター設置先を探していた折、ニューヨーク公共図書館の科学産業ビジネス図書館 (SIBL)<sup>5</sup>で行われているビジネス支援サービスとその需要

を目の当たりにした BL のプリンドリー館長が、BL でも同様の新サービスの展開を望んだ、という条件が重なり、2005 年に LDA から 100 万ポンドの資金援助を受けて、BIPC の設置に至りました。運営は、政府支出、自己収益、LDA からの資金提供を財源として行っています。

近年の英国では、行政では、ビジネス企業規制改革省、地方開発公社が経済政策レベルでビジネス支援の役割を担っています。行政と関係機関が協力して運営にあたる ‘Business Link’<sup>6</sup> もあり、民間では、地方企業公社、高等教育機関のネットワーク等の活動が顕著です。公共図書館での最近の画期的な取組みとしては、マンチェスター中央図書館が中心となって充実したビジネス支援情報を提供する ‘Ask about Business Service’ があります。そのほか、地方のビジネス情報に強い商工会議所や英企業の海外進出・対英投資の支援をしている英国貿易投資総省などもあります。このように、現在、国内の各方面でビジネス支援基盤が確



英国図書館 外観

- 1 Business & IP Centre, British Library (<http://www.bl.uk/bipc/>)
- 2 Mr. Nigel Spencer, Research & Business Development Manager of the British Library
- 3 住民の課題解決を支援する図書館サービスの一つで、起業、経営、就職などに役立つ情報を利用者に提供すること
- 4 London Development Agency (<http://www.lda.gov.uk/>)
- 5 Science, Industry and Business Library, New York Public Library (<http://www.nypl.org/research/sibl/>)
- 6 <http://www.businesslink.gov.uk/>

立しつつあり、図書館のビジネス支援サービスの重要性も非常に高まっています。

BIPC は、利用者を「顧客」として捉え、彼らを満足させる実用的で具体的な情報提供にサービスの主眼を置いています。その内容は、各々の顧客が必要な支援を判断し適切に案内すること、起業資金獲得方法や法律相談等のアドバイス、人脈作りの機会の提供、参考となるビジネスモデルの提示、技術支援・研修と多岐にわたり、従来の図書館レファレンスの枠を超えた非常に斬新な手法といえます。

### 3 BIPC のビジネス支援サービス

次に、BIPC の最近のおもなビジネス支援サービスの事例をご紹介します。

#### (1) 閲覧室

市場調査レポートコレクション (Mintel、Euromonitor 等) が充実しており、よく利用されます。利用者は年間約 1 万 6,000 人です。加えて、企業情報データベース (Amadeus、Kompass 等) や電子ジャーナルを館内で提供しており、ビジネス系データベースに年約 50 万ポンドを支出しています。また、英国国内だけでなく、海外の各国をカバーする情報の提供に努めています。最近の BIPC 来室者アンケートによると、利用目的は「市場動向の調査」「企画書の作成」等が多く、利用者はマイノリティーの比重が高い傾向にあります。



英国図書館ビジネス知的財産センター

#### (2) 対面相談サービス

利用者の図書館利用回数や学習スタイル等のレベルに合わせることを最も重視し、一対一で行うサービスです。‘Ask an Expert’ では、成功した起業家から直接助言や指導を受けることができます。‘Business Clinics’ は、BL 職員が利用者が求める情報に到達するためのガイダンスを行うもので、年間約 500 回実施しています。当初は蔵書の紹介が中心でしたが、より実用的な内容が求められており、職員はビジネスアドバイザーの資格取得に努めています。いずれも無料で所要時間は 1 時間程度です。

#### (3) ワークショップ

月に最低 1 回、1～2 時間程度、職員を講師として無料で行っているもので、これまでに実施したテーマは、「初心者向け知的財産案内」「ビジネス情報を探するために科学技術情報をどう活用するか」「海外でビジネスを行うには」等です。また、最近ではより実践的かつ高度なコースも開始しており、





ワークショップ

例えば「市場調査の基礎」では、フィールド調査手法や店舗を開設するための最適地の選択法等を一日かけて案内しています。年間約 150 回実施しており、参加者は各回 10 ～ 20 名で、80%以上の高い満足度を得ています。

#### (4) 起業家支援イベント

成功したビジネスパーソンを招き、講演やパネル討論を行うもので、250 人を収容できる講堂で夕方に開催しています。ワインを片手に語り合う時間もあるので、参加者同士のネットワーク形成にも貢献しています。英国で展開する日本のラーメン店の創業者を呼んだことや「娯楽とユーモア」というテーマの回もありました。



ビジネスパーソンの講演

#### (5) 遠隔研修コース

2008 年から開始した双方向の遠隔研修で、これまで「知的財産の基礎」「Web データベースを検索する（特許・商標）」「市場分析」をテーマに行いました。世界中から受講可能です。進捗度合いを測るクイズも用意され、三つのテーマをすべて受講すると約 6 時間かかります。初回には登録者 250 名を想定していたところ、1,000 名以上の応募があった大盛況の研修で、2008 年の 'British World of Learning Awards'<sup>7</sup> の最終選考に残ったことも大きな励みになっているようです。

#### (6) 産業ガイド

BIPC 職員が長年の業務経験で蓄積した有益な産業情報を 'Industry Guides'<sup>8</sup> として、利用者に提供するものです。現在 21 業種分を Web 上で公開しています。情報ソースは、蔵書や有用なウェブサイト、随時更新しています。来館しなくても情報が入手できるため、特に遠方の利用者にとって有効なサービスといえます。

#### (7) 有料調査サービス

1 時間 87 ポンド（データベース検索料金は別途課金）で行う非来館型の調査サービスで、蔵書や契約データベースを駆使して情報を提供しています。利用者層は、個人の発明家や零細企業、大学

7 British Institute for Learning & Development. World of Learning Awards 2008 finalists. (e-Learning Solution of the Year) (<http://www.thebild.org/news/OGNJOA/>)

8 <http://www.bl.uk/reshelp/findhelpindustry/>

の知識移転部門、大企業の研究部門に大別されます。料金が高額なので個人が負担することは厳しいですが、最近はビジネス支援を行う地方公社が地域内の企業の支払を肩代わりするケースも出てきています。ニーズの高いものは、特許調査、市場概況、会社情報、科学技術文献調査で、月100件を超える依頼を職員5人のチームでこなしています。

ここに挙げたほか、BIPCでは、起業支援に関わる団体（Business Link for London、Dynamic Asian Women's Network等）や専門家とパートナー・プログラムを組み、イベントを開催する等国内のビジネス支援基盤作りに協力しています。変わったところでは、受刑者の社会復帰支援のために対面サービスや研修等も行っています。また、知的財産や企業情報の専門的知識をもつ職員のブログ<sup>9</sup>もあり、興味深い発明品情報、情報産業の最新トピックス、起業家精神について等読んで楽しい多様な話題が掲載されています。

このように多様なサービスを行っているため、各種サービスに対するニーズが年々高まる中で、それに対応する職員を育成していくことは重要な要素です。そこで、BIPCでは、外部の専門家によるプレゼンテーション能力向上のための実践訓練、図書館情報学研修、出版者によるデータベース研修、パートナー・プログラムへの職員の参加、外部機関見学のような能力開発プログラムを実施して、スキルアップを心がけています。

また、起業を支援した業種数、経営危機から救った企業の数、BIPCが作り出した付加価値等を指標とする業務評価も行い、サービス水準の向上に努めています。

#### 4 BIPCの課題と今後の展望

LDAからBIPCへの資金援助は2011年で打ち切られます。現状のサービスを継続するためには新たな資金提供者を得る必要があり、現在もそのための調査を行っていますが、運営資金の獲得は大変大きな課題です。

現在、世界中が過去に類をみない経済不況に陥っています。しかし、BIPCでは、経済の再生におけるビジネス支援という視点で、景気後退の今こそがBIPCの活躍どころである、と現状を前向きに捉えています。失業者の増加で起業へのシフトが進むと思われます。それにより、新たな産業が生まれる可能性があります。ポンド安は海外での英国製品の販路拡大の好機です。

過去に比べて情報の流通スピードが格段に速くなり、利用者のニーズが多様化している現在、適切なサービスを迅速に提供することが要求されています。それらに応えるため、BIPCとBLの他部門の関連する資料室との連携ということも検討していく必要があります。BLでは、ビジネス支援と

9 Business & IP Centre blogs (<http://www.bl.uk/bipc/bipcBlogs.html>)

いう視点での全館的な資料配置や情報共有はいまだ課題となっています。BIPCは、しばしばBLとは別の独立した組織であると認識されがちですが、スペンサー氏は、BIPC職員はBLの蔵書についてより理解を深めるべきであるし、ほかのBL職員にはビジネス支援ニーズの重要性を訴えていくことが必要であると考えています。そのため、2010年に予算がつけば、レファレンス事例共有システムの構築も検討されています。

また、利用者の利便性を図るため、電子ジャーナルの遠隔利用サービスの実現に向けて出版者と協議を重ねて検討しているところです。

## 5 おわりに

スペンサー氏は、BIPCにおいて、図書館のレファレンス業務の責任者としての立場に加え、閲覧室の運営、利用者である企業・団体への広報活動やBIPCに対するニーズ調査、BIPC運営資金の獲得交渉等、驚くほど多くの業務を担当しています。これまでBIPCの運営に関わった経験から学んだこととして、他機関との協力・連携は、相手先を選ぶ際に慎重を要するものの、新たな観点やユニークな手法や経験をもたらし、新しいサービスの展開につながるという意味では非常に有効である、プロジェクトを進める際には、意思決定の遅れを避けるため少人数のチームで行うに限る、新サービス展開に当たっては現実的な視点に立ったリス

ク・マネジメントを常に念頭に置くべきであるが、大切なのは失敗を恐れず新しいことに挑戦する雰囲気を醸成することである、とお話になっていました。

BLと同じ国立図書館である国立国会図書館でも、科学技術・経済課を中心にビジネス支援サービスを展開しています<sup>10</sup>。BIPCの外部機関からの資金獲得や各種有料サービスとその収益の活用などは、当館とは大きく事情が異なりますが、そのサービスに取り組む姿勢や理念は非常に示唆に富むものであり、今回の業務交流は、当館にとっても学ぶべき部分が多い、実りのあるものとなりました。

(主題情報部科学技術・経済課)

ビジネス支援サービスについてよりくわしく知るために  
●田村俊作「第二章 ビジネス支援サービス」『公共図書館の論点整理』(勁草書房 2008) pp.35-58  
<請求記号 UL244-J4 >

10 当館ホームページで以下のコンテンツを公開しているほか、科学技術・経済情報室においてビジネス関係資料の充実努め、来館者向けの調べ方ガイダンス、図書館員向けの研修等様々なサービスを行っている。  
[調べ方案内]  
・産業情報ガイド (リサーチ・ナビ-経済、社会、教育)  
<http://rnavi.ndl.go.jp/business/post.php>  
・企業・団体リスト情報  
<http://rnavi.ndl.go.jp/kigyo/>  
・統計資料レファレンスガイド  
<http://rnavi.ndl.go.jp/business/post-1.php>



## 東洋文庫 その歴史と蔵書

国立国会図書館の支部図書館であった支部東洋文庫がこの3月31日に廃止され、60年の歴史に幕を下ろしました。しかし、東洋文庫自体は引き続き東洋学の専門図書館として活動を続けます。今回一つの節目を迎えたのを機に、東洋文庫の過去と未来、そしてその蔵書について紹介します。

### 東洋文庫の歴史

財団法人東洋文庫（以下、財団）は大正13（1924）年に三菱財閥の総帥岩崎久彌によって設立された日本で最初の東洋学専門図書館です。設立の契機と



岩崎久彌氏



G.E. モリソン氏

なったのは、1917年に岩崎がジョージ・アーネスト・モリソンのコレクションを購入したことでした。モリソンがロンドンタイムズの中国特派員や中華民国総統府顧問として中国に滞在し、20年かけて、欧米言語で書かれた中国を中心とするアジア関係の図書、雑誌、古地図、英国政府・議会の報告書類、銅版画、小冊子・抜刷などを集めたもので、約2万4千冊にのぼる世界的なコレクションです。

その後東洋文庫は、結集した研究者たちの努力と岩崎家の財政支援などもあって順調に発展し、東洋学の研究・普及に多大な貢献をしましたが、第

二次大戦後はその財政的基盤を失い、疎開していた資料を回収することもできず、資料散逸の危機に瀕しました。中国、オーストラリア（モリソンはオーストラリア出身）が戦争賠償として資料を接収するという噂もあったようです。そこでこの貴重な資料を散逸から守り、死蔵されることなく国民への閲覧提供を続けるため、国会での議論を経て、昭和23年、国立国会図書館が支部図書館を東洋文庫に設置して図書館業務を担うという契約を財団と結びました。これが「支部東洋文庫」です。

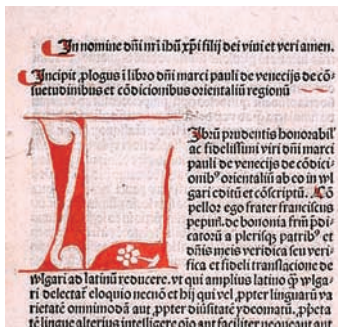
それから60年、支部は財団と協力して図書館業務を遂行し、また財団側も資料収集や研究活動などで文部科学省の補助金や三菱グループの支援を受けつつ活動してきましたが、このたび財団のみで図書館業務を遂行しうる見通しが立ったので契約解消の運びとなりました。



建替前の東洋文庫前景

### 東洋文庫の蔵書

現在、東洋文庫の蔵書数は約95万冊に達し、広くアジア全域を網羅するものとなっています。その核となるコレクションが、上述の「モリソン文庫」と岩崎久彌が収集した「岩崎文庫」です。岩崎文庫は約3万8千冊に及ぶ和漢書のコレクションで古写本や古刊本など稀覯書が多く、また浮世絵も



マルコ・ポーロ著『東方見聞録』  
アントワープ版 1485年

多数含まれていま  
す。東洋文庫はそ  
の後、この二大コ  
レクションを基礎  
に多くの資料を購  
入し、また各種コ  
レクションの寄贈

を受けてその内容を豊かにしていったのです。

おもなものを列挙しますと、国宝5点（『史記』  
など）と重要文化財7点（『ドチリーナ・キリシタ  
ン天草本』など）のほか、漢籍では永樂大典34冊、  
中国地方志約3,000部、中国の族譜約860部、河口  
慧海将来のチベット大蔵経および蔵外文献、満洲  
語の档案資料（公文書の類）などは世界有数のコ  
レクションです。ほかに英仏露など世界各地に分  
散した敦煌文書を組織的網羅的にマイクロフィル  
ム化し収集したコレクションがあります。また近  
代中国研究委員会収集資料は、アヘン戦争以後の  
近代中国に関する和洋中の資料を系統的に収集し  
たもので、最も閲覧利用の多い資料の一つとなっ  
ています。アラビア語、ペルシャ語、トルコ語な  
どのイスラム関係資料も質量ともに日本で最大級  
を誇り、現在も重点的に収集を進めています。日  
本関係の洋書についても、モリソン文庫に『東方  
見聞録』の古刊本コレクションなど貴重なものが  
含まれるほか、特に戦前には多くの資料を丹念に  
収集していました。

## リニューアルオープンに向けて

現在東洋文庫では本館の建替工事を行っていま  
す。平成23（2011）年秋に完成予定です。新本館で  
は、書庫の収容能力がこれまでの1.5倍となり、長  
年の課題であった書庫の満架状態が解消されるほ  
か、最新の空調、消火設備も備えられます。また  
これまでは「専門の研究者のための図書館」とい  
うイメージでしたが、広い展示スペースを設けて  
国宝、重要文化財を含め文庫の貴重な蔵書を展示  
し、広く一般の方々への東洋学の普及という面に  
も力を入れていく予定です。

なお、工事期間中も敷地内の仮設事務棟内に設  
けた閲覧室で資料の閲覧を続けています。ただし、  
一部の資料（和書、和雑誌、漢籍叢書の一部）は  
閲覧を停止していますので、来館の際は事前に東  
洋文庫ホームページでご確認ください。

（文責：渡邊 幸秀）

主題情報部人文課長 [前・支部東洋文庫長]

新本館模型  
（東洋文庫建替計画  
縮尺1/200模型）  
設計管理  
株式会社三菱地所設計



財団法人東洋文庫

〒113-0021

東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03(3942)0122

閲覧時間 9時～16時30分

休館日 毎週土曜日・日曜日、国民の祝日、毎月の月末（そ  
の日の土、日、祝日にあたるときはその前日）、創立記念  
日（11月19日）、年末年始（12月27日～翌年1月4日）

URL:<http://www.toyo-bunko.or.jp/>

# 本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## 街かど美術館アート@つちざわ〈土澤〉 advance カタログ 3rd(2007)

街かど美術館実行委員会刊  
〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地  
萬鉄五郎記念美術館内  
2008.2 224頁 29.9×22.2cm <請求記号 K16-J82>

本書は、2007年10月27日から約1か月間にわたり岩手県花巻市東和町にある「土沢商店街」を会場に開催された「街かど美術館2007 アート@つちざわ〈土澤〉 advance」の図録である。「アート@つちざわ」は、同地の「萬鉄五郎記念美術館」事務長の発案に地元住民・商店街がサポートする形で始まったアートイベントだ。2005年の第1回、翌年の第2回と公募による作家たちの作品を商店街に展示。多くの来場者を迎え、成功を収めてきた。本書はこの第3回の図録である。

第3回の「アート@つちざわ」は前2回とは形を変え、それまでの参加者から作家を選抜する方式で開催された。選抜基準は「1.住民と良好なコミュニケーションがはかれること 2.独創的な作品であること 3.展開力のある美術表現であること 4.滞在制作が可能であること」。結果、渡辺豊重（平面・立体造形）、松本秋則（サウンドオブジェ）、沢村澄子（書）、鎌田紀子（立体造形）の4氏が選ばれた。

本書には、まずこの4氏の作品が掲載されている。現役の商店、廃業した風呂屋、何気ない町の一角などに展示された自由で個性的な作品。その一つ一つに驚いたり考え込んだりさせられ、音の出る作品についてはどんな音が鳴るのかと想像力を駆使しながら楽しく展示を追体験できる。また、作者のコメン

トを通じて作品の制作過程やこめられる思いを知るとともに、これらの作品が土沢商店街のもつ雰囲気や、土地と作家の融和によって生まれたこともよくわかる。また、巻末にまとめられたシンポジウムやワークショップ、演奏会などの関連行事記録からは、このイベントの広がりがうかがえて興味深い。

一方、「アート@つちざわ」は文化庁の芸術拠点形成事業（ミュージアムタウン構想の推進）の「地域振興と一体となったミュージアム事業」に採用されたイベントでもある。地域振興には、そこにいる人の活力が必要となるものだが、本書に見られる人びとがいずれも表情豊かで元気なことは印象的だ。また、本書の中には「作品、展示会がそれぞれの中に残り、育っている」という内容の言葉があり、それを作家と主催者がそれぞれ別のところで発していることもとても興味深い。こうした点を通じ、このイベントが地域振興・芸術拠点事業としても一定の成功を収めていることが伝わってくる。

今後はビエンナーレ形式で続いていくという「アート@つちざわ」。本書を通じ第3回が既存の形から一歩前進した「advance」であることを知ると、今後の展開、次の図録を見ることも楽しみになる。

なかの みちこ  
(中野 路子)





## 100年のあゆみ 通史 / 部門史

阪急阪神ホールディングス株式会社グループ経営企画部  
(広報担当) 編 阪急阪神ホールディングス刊  
〒530-0012 大阪市北区芝田一丁目16番1号  
2008.3 31cm × 21cm 301頁 / 383頁  
<請求記号 DH22-J34/DH22-J35 >

阪急電鉄といえば、あのマルーン色の車体やアンゴラ山羊のシートがまず想起される。近鉄沿線に育った筆者にとって、梅田駅から阪急電車に乗る時、大げさに言えば異なる文化圏に入ったような感覚を持った。このように、私鉄沿線には各電鉄会社が育んだ固有の文化がある。だからこそ、村上ファンドによる阪神電気鉄道株式取得を端緒として、阪急と阪神の経営統合が決定した時、世間は大きな驚きをもって受け止めたのである。

本書は、阪急電鉄の創立100周年を記念して発行された社史であり、1907年に前身である箕面有馬電気軌道が設立されて以来、100年にわたる歩みが豊富な写真や資料を用いて解説されている。「通史」が縦軸として年代順にできごとを追い、「部門史」が横軸として事業ごとの広がりや詳述する立体的な構成となっている。

「通史」は、1年ごとのトピックスを取り上げ解説している。神戸・三宮への延伸、京阪との合併に伴う京都線の誕生、全国初の自動改札機の登場、阪神・淡路大震災による被害と復興といった鉄道業の話題が中心であるが、それだけではない。沿線住宅地の造成やターミナル駅付近の開発、大阪阪急野球協会（後の阪急ブレーブス）の創設や、宝塚歌劇団の誕生など、同社の事業の多様性が散見される。これは、宅地開発・教育・消費・娯楽といった分野

を鉄道事業に関連付け、沿線を開発するという創業者・小林一三の哲学によるものである。こうした鉄道沿線に生活文化を築く阪急の手法は、阪神の鳴尾野球場（現在の阪神甲子園球場）、東急・西武の沿線住宅地の分譲事業など



「通史」 34 ページ

にも見られ、後の私鉄各社の沿線開発のモデルともなっている。

「部門史」では、こうした多様性が掘り下げられ、都市交通、不動産などの事業ごとにその歴史的経緯と展望が述べられている。ページをめくると、イギリスの田園都市をモデルに開発された沿線住宅をPRする冊子「如何なる土地を選ぶべきか、如何なる家屋に住むべきか」の紹介や、川の流れる阪急三番街のオープン記録が目に入る。その事業範囲は、雑誌『FIGARO Japon』や『Pen』の発行、書店「Book 1st」の展開、かつての宝塚ファミリーランドの運営にまで及び、阪急文化圏ともいべき広がりを実感させられる。また、巻末には資料編として財務諸表や施設・店舗一覧、年表や参考文献などが掲載されている。

本書は阪急電鉄の歴史が記録された、同社を研究する基礎資料であるとともに、阪急沿線が有する文化の奥深さが感じられる一冊である。筆者が、その輝きに憧憬を抱きつつも、我が近鉄沿線にも良さがある、という思いを捨てきれないように、私鉄沿線には、地域性と文化が作り上げられ、人々の生活が息づいているのである。

まつだ としひろ  
(松田 稔広)

# 韓国関連情報の調べ方

## 図書館で学ぶ 第1回

調べものに役立つ情報や資料の活用法など、国立国会図書館ならではの知識を紹介します。

今回は、韓国に関する情報を国立国会図書館の蔵書やウェブ情報を使って調べてみましょう。

### ① 会社情報を調べる

韓国のサムスン電子という会社の概要について知りたい

韓国企業の概要が掲載されている資料として、会社年鑑があります。会社年鑑は、各企業が業種別に排列されているので、業種ごとに、どんな企業があるのかについても調べることができます。

日本語の会社年鑑には、『韓国企業年鑑』（東洋経済日報社）や『韓国会社情報』（東洋経済日報社）などがあります。また朝鮮語の会社年鑑には、『会社年鑑』（毎日経済新聞社）や『韓国企業総覧』（ヘラルドメディア）などがあります。

上記の資料には、韓国主要企業の事業内容・代表者氏名・従業員数・本社住所・設立年月日・財務状況の概要などが掲載されており、各企業の基本的な情報を知るのに適しています。

韓国企業について、より詳細な情報を知りたい場合には、各企業が作成している報告書を調べる方法があります。日本の有価証券報告書に相当する「事業報告書」は、企業の概要・業績・財務諸表などが掲載されており、会社年鑑より詳細な情報を得ることができます。

事業報告書は、企業のホームページにIR情報（投資家情報）として掲載されていることがあります。また、事業報告書を横断的に検索できるウェブ情報源もあります。

サムスン電子の事業報告書は、サムスン電子 (<http://www.samsung.com/sec/>)、「電子公示システム」および「韓国取引所」の各ホームページで閲覧することができます。



「電子公示システム」 (<http://dart.fss.or.kr/>)



「韓国取引所」 (<http://sm.krx.co.kr/>)



韓国関連の参考図書が並ぶアジア情報室（関西館）

## ② 統計情報を調べる

韓国人大学生が世界のどの国に何人  
くらい留学しているかを知りたい

韓国の統計が掲載されている日本語資料としては、『韓国（東アジア長期経済統計 別巻1）』（頸草書房）や、『中国・韓国・アジア諸国の産業統計データ集 2005年版』（日本能率協会総合研究所）などがあります。しかし、韓国の学生数全体は掲載されていませんが、留学生数については触れられていません。

朝鮮語の資料としては、『韓国統計年鑑』（統計庁）や『教育統計年報』（教育科学技術部）があります。しかし、これら朝鮮語の資料でも、国別の留学生数まではわかりません。

冊子体の資料では求める情報にたどりつけない場合でも、ウェブ上に掲載されている場合があります。国立国会図書館が作成している「AsiaLinks」にアクセスしてみてください。



AsiaLinks - アジア関係リンク集 - (アジアリンクス) ([http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/link/asia\\_05link.html](http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/link/asia_05link.html))

アジアの56の国・地域の有用なウェブ情報源約8,200を集めたリンク集です。「国・地域別に調べる」「機関別に調べる」「テーマ別に調べる」という3つの索引があります。

統計を調べている場合には、AsiaLinksの「国・地域別に調べる」から「韓国」を選択し、次に「テーマ別に調べる」から「統計」を選択してください。すると、「国家統計ポータル」「経済統計システム」「貿

易統計」などのウェブ情報源があることがわかります。

「韓国人大学生の国別留学生数」は、「国家統計ポータル」で調べることができます。



「国家統計ポータル」(<http://www.kosis.kr/>)

「国家統計ポータル」は、韓国統計庁が提供しているデータベースで、人口・財政・金融・労働・環境・貿易・物価・農林漁業・交通・教育など様々な分野の統計資料が掲載されています。キーワードや主題から、求める統計データを検索することができます。

## ③ 新聞記事を調べる

2007年12月19日に行われた韓国大統領選挙について、韓国の新聞記事を読みたい

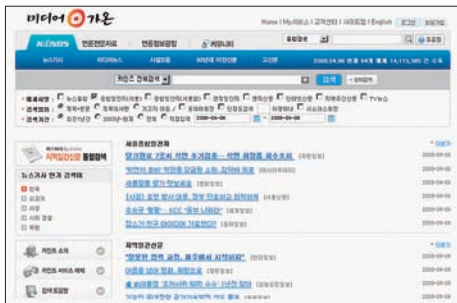
アジア情報室では、韓国の3大紙『朝鮮日報』『東亜日報』『中央日報』をはじめ、主要な全国紙・地方紙を所蔵しています。来館による閲覧または紙面を特定しての郵送複写の依頼が可能です。

また、KINDS (カインズ) にアクセスすれば、ウェブ上で韓国の新聞記事を読むことができます。

KINDSとは、韓国言論財団が提供する新聞記事のデータベースです。全国紙9紙・地方紙25紙・経済紙6紙について、1990年以降の新聞記事を無料で閲覧できます。新聞紙名・日付・キーワードなどから検索可能です。ただし、新聞記事はテキスト



形式で表示され、写真・グラフ等は見ることができません。一部の新聞については、1990年以前の新聞紙面もPDF形式でダウンロードできます。



KINDS (<http://www.kinds.or.kr/>)

なお、『朝鮮日報』『東亜日報』『中央日報』の3大紙は、日本語版のホームページを設けており、一部の記事を日本語で配信しています。前述のAsiaLinksからアクセスできます。

#### ④ 所蔵調査をする

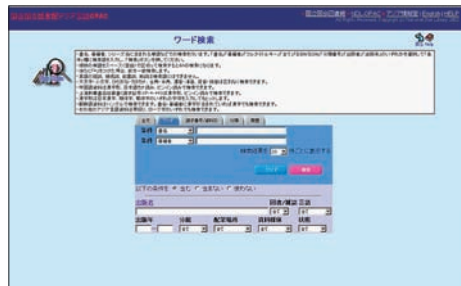
『조선도자기사연구』(朝鮮陶磁器史研究)  
(1996年発行)が読みたい

まず、国立国会図書館の所蔵を調べてみましょう。国立国会図書館の朝鮮語資料の所蔵は、アジア言語OPACで調べることができます。

トップページ中央の検索窓に、書名・著者名などを入力して、検索してください。朝鮮語資料を検索する場合、ハンガルの「分かち書き」で入力することがポイントです。「分かち書き」とは、単語ごとにスペースを入れて入力するということです。

この場合は、「조선」(朝鮮)と入力してから、スペースを空けて「도자기사」(陶磁器史)と入力、さらにスペースを空けて「연구」(研究)と入力してください。

しかし、アジア言語OPACで検索しても、ヒットしませんでした。



アジア言語 OPAC (<http://asiaopac.ndl.go.jp/>)

#### ○国内他機関の所蔵を調べる

国立国会図書館では所蔵がなかったため、次に国内他機関の所蔵を調べてみましょう。国内の複数の機関の所蔵を横断的に調べたいときに活用できるのが、NACSIS Webcatです。朝鮮語資料は、ハンガルで検索でき、かつ所蔵館の情報が日本語で表示されるWebcat Plusの一致検索で検索するのが便利です。



Webcat Plus (<http://webcatplus-equal.nii.ac.jp/libportal/equalTop.html>)

しかし、Webcat Plusで検索しても、ヒットしませんでした。

## ○国立中央図書館の所蔵を調べる

国内で所蔵が見つからない場合は、いよいよ韓国での所蔵を調べることになります。まず国立中央図書館で所蔵しているかを調べてみましょう。国立中央図書館は、700万冊以上を所蔵する韓国最大規模の図書館です。



韓国国立中央図書館 (<http://www.nl.go.kr/>)

国立中央図書館ホームページのトップページには、「소장자료검색」(所蔵資料検索)と書かれた検索窓があります。キーワードを入力すると、検索結果が表示されます。

国立中央図書館のOPACでは、「図書のタイトル」「逐次刊行物のタイトル」「図書の目次」「逐次刊行物の記事索引」などの統合検索が可能です。また、検索結果画面で「목차」(目次)の欄に青いマークが表示されている資料は、目次情報を閲覧することができます。

「조선도자기사연구」(朝鮮陶磁器史研究)で検索したところ、1件ヒットしました。国立中央図書館で所蔵しています。また目次情報も公開されているので、本文の大まかな内容と掲載ページを確認することができます。

国立中央図書館は、海外在住の個人に対する郵送複写サービスも行っています。申込方法など詳しくは、アジア情報室ホームページをご参照ください。

## ⑤ 朝鮮語の雑誌記事を調べる

韓国の電子図書館について書かれた、朝鮮語の論文を探している

韓国の雑誌記事を検索できるデータベースとして、RISS (学術研究情報サービス)があります。RISSは、韓国教育学術情報院が運営しており、韓国の大学図書館の所蔵を調べることができます。



RISS (<http://www.riss4u.net/>)

トップページ中央の検索窓に、キーワードを入力して検索します。「図書のタイトル」「逐次刊行物のタイトル」「学位論文のタイトル」「逐次刊行物の記事索引」などの統合検索が可能です。検索結果画面で、タイトルをクリックすると、書誌事項や所蔵機関を確認することができます。また、青色で「原文を見る」と表示されている資料は、会員登録(無料)をすれば、原文をダウンロードすることができます。⑤の場合、検索窓に「전자」(電子)「도서관」(図書館)と入力して検索してみると、学術誌論文が231件ヒットしました。

その他に、韓国の雑誌記事を検索できるデータベースとして、KSI学術論文情報、DBpiaなどがあります。それぞれのデータベースは、前述のAsiaLinksからアクセスできます。

## ⑥ 選挙結果を調べる

### 韓国の国会議員選挙の選挙結果を調べたい

選挙結果の概要が掲載されている日本語資料として、『CLAIR REPORT』（自治体国際化協会）があります。『CLAIR REPORT』は、海外の最新情報を分野別にまとめた資料で、韓国の各選挙について解説する号が発行されています。

『CLAIR REPORT』はウェブ上で公開されており、PDF形式でダウンロードすることができます（[http://www.clair.or.jp/j/forum/c\\_report/](http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/)）。「大韓民国の第15代国会議員総選挙について」（第122号）や「韓国の国会と第17代総選挙結果分析」（第260号）などの記事があり、選挙結果の概要や、政党別・地域別の当選者数が掲載されています。

朝鮮語資料では、中央選挙管理委員会から発行される「選挙総覧」があります。選挙総覧は、各政党の選挙公約、候補者の経歴、地域別の投票率・得票数などの詳細な情報が掲載されています。『第17代国会議員選挙総覧：2004.4.15 施行』（中央選挙管理委員会）や『第18代国会議員選挙総覧：2008.4.9 施行』（中央選挙管理委員会）などがあります。

ウェブ情報源では、中央選挙管理委員会の「歴代選挙情報システム」があり、選挙総覧とほぼ同様の情報を得ることができます。



歴代選挙情報システム

(<http://www.nec.go.kr/sinfo/index.html>)

ページ上部に表示されている「유권자수」（有権者数）、「후보자」（候補者）、「투표」（投票）、「개표」（開票）、「당선인」（当選人）、「일반통계」（一般統計）から、見たい情報をクリックします。その後、選挙の種類や時期、地域を選択すると、詳細なデータが表示されます。

なお、歴代選挙情報システムでは、国会議員選挙だけでなく、大統領選挙、地方自治体首長選挙、地方議会議員選挙などのデータも見ることができます。

## ⑦ 応用編 公文書を調べる

### 韓国とベトナムが国交を樹立したときに、 両国政府が締結した文書が見たい

まず韓国とベトナムが国交を樹立した年月日を特定するために、年表を調べることにします。日本語では『年表で見る韓国の歴史』（明石書店）、朝鮮語では『韓国史年表』（東方メディア）などがあります。これらの年表より、韓国とベトナムが国交を樹立した年月日は、1992年12月22日だとわかりました。

日付が特定できたので、新聞記事やニュース年鑑を調べてみます。新聞記事は、③で紹介した「KINDS」で調べることができます。ニュース年鑑には、『東亜年鑑』（東亜日報社）や『連合年鑑』（連合通信）があります。ニュース年鑑は、政治・経済・社会・文化・スポーツなど様々な分野について、1年間の動向が詳しく記載されています。

各紙の新聞記事やニュース年鑑の記事により、韓国・ベトナム両国政府は、「外交関係樹立に関する共同声明」に署名したことがわかりました。しかし、新聞記事やニュース年鑑には、共同声明の本文は掲載されていませんでした。

次に、『外交白書』（外交通商部）と『大韓民国外交年表』（外交通商部）を調べてみます。これらは、日本の外務省に相当する外交通商部から毎年発行さ



れている資料です。

『外交白書』と『大韓民国外交年表』は、④で紹介した国立中央図書館のOPACで、目次情報が公開されています。これにより、『外交白書』には韓国の外交政策の概要などが掲載されており、『大韓民国外交年表』には1年間の年表や主要な外交文書の本文などが掲載されていることがわかります。

『大韓民国外交年表』1992年版の目次情報を確認すると、231ページに共同声明の本文が掲載されていることがわかりました。

外交通商部のホームページ (<http://www.mofat.go.kr/>) を調べてみます。1990年版以降の『外交白書』、2002年版以降の『大韓民国外交年表』が公開されており、原文をダウンロードすることができます。しかし1992年版の『大韓民国外交年表』は公開されていませんでした。

そこで、「国家記録ポータル」を調べてみます。



「国家記録ポータル」 (<http://contents.archives.go.kr/>)

国家記録ポータルとは、日本の国立公文書館に相当する国家記録院が提供する、公文書・政府刊行物のデータベースです。キーワード、主題別、組織別の検索が可能です。一部の資料は、会員登録（無料）をすれば、原文を見ることができます。

国家記録ポータルのトップページで、検索窓に「대한민국의외교연표 (大韓民国外交年表)」と入力して検索すると、『大韓民国外交年表』1992年版がヒットしました。原文が公開されており、共同声明の本文を見ることができました。

今回の事例では、いきなり国家記録ポータルで、「베트남 (ベトナム)」や「공동성명 ((共同声明)」などのキーワードを入力して検索しても、求める文書がヒットしません。まず国立中央図書館のOPACで目次情報を確認して、資料名を確定してから、ウェブ情報源を探す必要があります。また政府刊行物は、ウェブ上で公開されていることが多いですが、省庁や刊行物によっては、5～10年以上前のものは公開されていないこともあります。

(記事中のウェブサイトの最終接続日は2009年4月8日です)

この記事は昨年11月に図書館員を対象として行ったアジア情報研修を題材にしています。

アジア情報研修は、毎年11月に開催しています。これまでに行った研修の概要や、講義テキストの一部は、アジア情報室ホームページ内の「アジア情報研修」 ([http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/contents/asia\\_workshop.html](http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/contents/asia_workshop.html)) のページでご覧いただけます。

今年度は、南アジアをテーマに実施する予定です。アジア関係資料を扱っている図書館員の方のご参加をお待ちしています。

(関西館アジア情報課)

今回は、科学技術資料の検索方法を紹介します。

## 第44回貴重書等指定委員会報告 新指定貴重書のご紹介

2月18日、第44回貴重書等指定委員会を開催し、国立国会図書館貴重書指定基準・国立国会図書館準貴重書等指定基準に基づき、新たな貴重書および準貴重書を指定しました。貴重書に指定した資料は、古刊本1点、古活字版7点、江戸初期刊行本1点です。準貴重書に指定した資料は、江戸初期頃の色替わり料紙摺り資料2点です。この結果、当委員会が指定した資料の累計は、貴重書1,255点、準貴重書787点となりました。以下に新指定資料について紹介します。

### 貴重書

#### 1 菩薩戒本宗要輔行文集 <請求記号 WA3-35>

叡尊〔著〕〔鎌倉～南北朝時代〕刊 2巻2帖 大きさ29.0×10.8cm 折本 上巻巻末「宗要輔行文集」(上部破損「菩薩戒本」と補写) 上巻外表紙墨書「菩薩戒本宗要輔行文集」 上巻内表紙墨書「宗要文集上巻」 下巻巻末墨書「菩薩戒本宗要輔行文集」 薄茶色表紙(補修済み) 本文料紙楮 無辺無界 字高24.5～25.0cm 每半折6行 毎行21～22字 小字双行 上巻49折 下巻42折 下巻巻頭及び巻末欠損補写あり 墨書:「興正菩薩御點附」、梵字(イ)(上巻外表紙)「高順」「春岳院法泉需之」「相傳不空院順盛」「于時元徳二年正月十一日以興正菩薩御點移點畢」「義□」「西大寺行□」(上巻巻末)「春岳院常什物」(上巻巻末裏)「乞士高順」(下巻表紙) 梵字(イ)(下巻表紙内側)「弘安八年乙酉二月六日西大寺沙門叡尊」(下巻巻末)「春岳院常什物」(下巻巻末裏) 上下巻とも本文朱筆・朱点・墨筆書入あり 印記なし 全体に補修済



菩薩戒本宗要輔行文集

菩薩戒本の要点を説く『菩薩戒本宗要』(新羅・太賢著)についての解説書。刊記はないが、下巻巻末の墨書「弘安八年乙酉二月六日西大寺沙門叡尊」から、弘安8(1285)年に西大寺の叡尊(1201-1290)が著したものと推測される。叡尊は、真言律宗の宗祖として戒律の遵守実践を提唱した僧である。

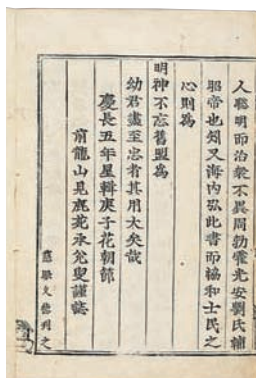
指定本は西大寺版と呼ばれる寺院版で、上下2巻2帖の構成。字形や刷りの状態から、各帖は異なる時期に版木を作製・印刷したと考えられる。上巻は、巻末の「于時元徳二年正月十一日以興正菩薩御點移點畢」という識語や書込みから、本書が成立した弘安8年から元徳2(1330)年までの間に、下巻は紙質などから弘安8年から南北朝時代頃までの間に刊行されたと推測される。

来歴については、「高順」「春岳院法泉需之」「相傳不空院順盛」などの人名の書入れと関係があるように考えられるものの、詳細は不明である。

調査の範囲では、同版の所蔵はほかには見当たらず、西大寺版の今後の研究に資する資料と考えられる。

## 2 貞観政要

（唐）呉兢撰（元）戈直集論 慶長5（1600）年刊 古活字版 伏見版 10巻8冊 大きさ27.4×19.3cm 書名は巻頭による 刊記「慶長五年星頼庚子花朝節 / 前龍山見鹿苑承兌叟謹誌 / 慈眼久徳刊之」 改装本 袋綴 五針眼訂法 黄土色表紙 灰青色題簽（書名・巻数を墨書） 四周双辺 郭内 21.7×15.6cm 有界 每半葉7行（跋のみ8行） 毎行17字 漢字活字 注小字双行 版心「貞観一（～十）（丁数）」 黒口 上下花魚尾 乱丁あり 不審紙あり 全巻にわたって朱引き、墨書付訓書入れあり 印記「敬復齋」「不忍文庫」「高木家蔵」「松本氏 / 圖書記」 木箱入り（「不忍文庫」の墨書あり）



貞観政要

巻10



巻1

唐の太宗と群臣との間に論じられた政治論などを分類編さんしたもの。貞観は太宗の年号（627-649）。

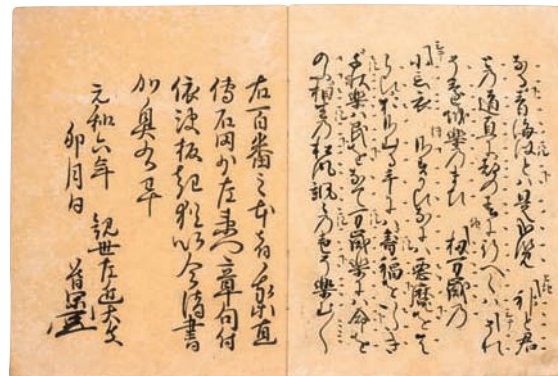
指定本は、徳川家康が、伏見円光寺の閑室元估（かんしつげんきつ）（1548-1612）に10万個の木活字を与えて刊行させた「伏見版」で、日本の出版文化史上大きな意義を持つ。改装されているが、10巻揃いの完本で、刊行者である閑室元估の旧蔵。その後、屋代弘賢（やしろうかた）（幕臣・国学者）、高木利太（大阪毎日新聞社社長）、二代目安田善次郎（実業家）らの所蔵を経る。

当館ではすでに伏見版『貞観政要』を1本（請求記号：WA7-32）所蔵しているが、巻1～5のみである。また、閑室元估手沢本を含む円光寺旧蔵書のコレクション約400点もある。

## 3 〔謡本〕

＜請求記号 WA8-17＞

〔元和9（1623）年頃〕刊 63冊 大きさ縦23.8～24.1cm 横17.5～17.8cm 書名は仮に付す 奥書（各冊巻末）「右百番之本者我等直 / 傳石田少左衛門章句付 / 依決板起猶以令清書 / 加奥書畢 / 元和六年 / 卯月日 / 観世左近大夫 / 暮閑（花押）」 綴葉装 表紙は紺地に金銀泥で絵を描く 左肩刷題簽（白または茶）に曲名を記す 見返し金泥霞引き 本文料紙厚手斐紙 無辺無界 每半葉7行 毎行13字内外 平仮名漢字交じり 両面刷 「あふむ小町」前半6丁乱丁 「志賀」2丁落丁 「そとは小町」に「志賀」の2丁が混入 全100冊のうち37冊欠 印記なし



〔謡本〕 高砂

各巻の巻末に「元和六年卯月日」観世左近大夫暮閑（1566-1626）の奥書があることから、「元和卯月本」と通称される観世流の謡本。年月の明記された版行謡本としては最も古く、最初の観世大夫公認の謡本として、以降の観世流謡本に影響を与えた。



指定本は、全100冊揃いのうち63冊。冊により奥書の版に相違がみられること、色の異なる題簽が混用されていることなどから、同時期に作製されたものではなく、後に取り合わされたとも考えられる。

「元和卯月本」は伝本により表紙の絵や入木・墨書訂正の箇所などに相違があることが指摘されているが、全冊全丁についての調査はいまだ行われていない。各伝本の作製時期の先後や作製の経緯など、今後の研究が期待される。

100冊揃い本は早稲田大学演劇博物館、尊経閣文庫などで所蔵。



孔子家語

国立公文書館内閣文庫所蔵の同版に「元和八年」の書入れがあることなどから、元和頃の刊行と推定される。実業家戸川浜雄ほかの所蔵を経る。

4 孔子家語 <請求記号 WA7-270 >

(魏)王肅註〔元和(1615～1624)頃〕刊 古活字版 4冊(全10巻のうち、巻5、6欠) 大きさ28.1×20.1cm 書名は巻頭による 袋綴 四針眼訂法 茶色原表紙を残して改装 四周双辺 郭内21.0×16.0cm 有界 每半葉9行 毎行18字 注小字双行 漢字活字 版心「家語 卷一(～十)(丁数)」黒口 上下花魚尾 第1、3冊に墨筆で訓点等書入れあり 第1冊に朱筆で傍線等書入れあり 印記「残花書屋」「糸魚庵藏書」「賣南」「月明荘」「八尾三徳」

孔子の言行や門人との対話を収録したもので、日本でも『論語』とともに古くから読まれた。慶長4(1599)年には正文を簡略にした句解本が伏見版として刊行され、当館も1本を所蔵している(請求記号:WA7-186)。

指定本の古活字版は、伏見版とは別系統の王肅注10巻本だが、巻5、6を欠く。刊記はないものの、

5 日本書紀抄 <請求記号 WA7-273 >

[清原宣賢講]〔寛永年間(1624～1644)〕刊 古活字版 2巻2冊 大きさ29.0×21.0cm 書名は巻頭による 巻末書名「日本書紀之抄」刊記「於洛陽本能寺前町開板」袋綴 四針眼訂法 渋染め表紙 四周双辺 郭内22.5×17.0cm 無界 每半葉16行 毎行21字内外 版心「日本抄 上(下)(丁数)」黒口 上下黒魚尾 漢字片仮名交じり下巻第20丁の山上憶良の和歌のみ平仮名活字 印記「大黒[山蔵]書」「平□(恵か)之印」「字曰元郷」



日本書紀抄

『日本書紀』全30巻のうち、巻1～2の「神代巻」について、室町時代後期の学者清原宣賢きよはらののぶかた（1475-1550）が行った講義の聞き書き。大永8（1528）年頃に最初の清書本が完成したと考えられ、その後数種の写本で伝えられた。

指定本は、巻末に「於洛陽本能寺前町開板」とあり、京都の日蓮宗本能寺周辺の書肆によって出版された古活字版で、初めての刊本である。

漢字、片仮名交じりの仮名抄物で、口語体で記されているため、当時の言語研究資料としても価値が高い。巻2の20丁表のみ平仮名活字が用いられているが、その背景などは不明。お茶の水図書館成篋堂文庫などで所蔵する。

## 6 平家物語 <請求記号 WA7-269 >

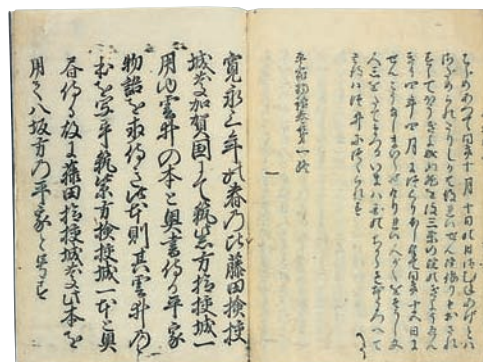
〔元和（1615～1624）頃〕刊 古活字版 12巻（付灌頂巻）12冊 大きさ 28.4×20.7cm 書名は巻頭による 袋綴 四針眼訂法 栗皮色原表紙 表紙左肩刷題簽「平家物語 一（～十二）」本文料紙楮 四周双边 郭内 22.2×17.0cm 無界 每半葉12行 毎行22～26字 漢字片仮名交じり 黒口 上下花魚尾 版心「平家巻一（～十二）（丁数）」巻1、12に墨書あり 印記なし



6 平家物語

## 7 平家物語 <請求記号 WA7-271 >

〔寛永5（1628）年〕刊 古活字版 12巻12冊 巻6、12は正保3年整版の取り合わせ 大きさ 26.5×19.0cm 書名は巻頭による 袋綴 四針眼訂法 小豆色地後補表紙 表紙左肩ベージュ色地橙色横刷毛目銀箔散し書題簽「平家物語 一（二、四、五、七、八、十、十一）」「平家物かたり 三（六、九、十二終）」本文料紙楮 古活字版版式 無辺無界 字高約22.0cm 每半葉12行 毎行22字内外 漢字平仮名交じり 濁点付活字 版心「平家巻一（～五、七～十一）（丁数）」白口 巻1巻末に跋あり 巻1の13丁まで振り仮名を墨書 印記「木街狩野氏之文庫」「狩野栄川」「吉田蔵書」



7 平家物語

『平家物語』は、我が国の文学書中、最も多く刊行された本の一つであり、最初に古活字版で刊行された。その古活字版には、片仮名交じり本5種類、平仮名交じり本9種類が知られている。指定本6は片仮名交じり本。指定本7は平仮名交じり本だが、巻6、12は正保3年整版の取り合わせである。

これらが加わり、当館では、片仮名交じり本を2種類、平仮名交じり本を3種類所蔵することになった。

なお、調査の範囲では、7は東京芸術大学附属図書館で巻12を所蔵するのみで、ほかの所蔵が知られず、たいへん珍しいものである。

8 源平盛衰記 <請求記号 WA7-272 >

〔寛永年間（1624～1644）〕刊 古活字版 乱れ版 存巻13～48 18冊 大きさ29.0×20.2cm 書名は巻頭による 袋綴 四針眼訂法 こげ茶色表紙 表紙左肩に刷題簽「源平盛衰記 十三之四（～四十七之八）」版心「盛衰記巻十三（～四十八）（丁数）」本文料紙楮 古活字版版式：四周双边 郭内22.7×16.6cm（巻13本文巻頭）無界 每半葉12行 毎行24字内外 片仮名付訓漢字活字、片仮名交じり 黒口 上下花魚尾 整版版式：四周双边（一部单边）郭内22.6×16.6cm（巻13本文3丁表）無界 每半葉12行 毎行24字内外 黒口 上下花魚尾 印記なし

9 源平盛衰記 <請求記号 WA7-274 >

〔寛永年間（1624～1644）〕刊 古活字版 乱れ版 存巻9・10、巻13・14、巻23～28、巻31～48 14冊 大きさ28.5×20.6cm 書名は巻頭による 刊記「藤本久兵衛開版 重家」袋綴 四針眼訂法 茶色原表紙を残して補修（表紙裏に全冊「四書大全説約合参正解」の「論語」の反古紙あり）表紙左肩に刷題簽「源平盛衰記 十三之四（～四十七之八）」本文料紙楮 版式は8と同様 古活字版郭内22.7×16.6cm（巻13本文巻頭）整版郭内22.8×16.5cm（巻13本文3丁表）印記「北越天神高橋庫中圖書之記」

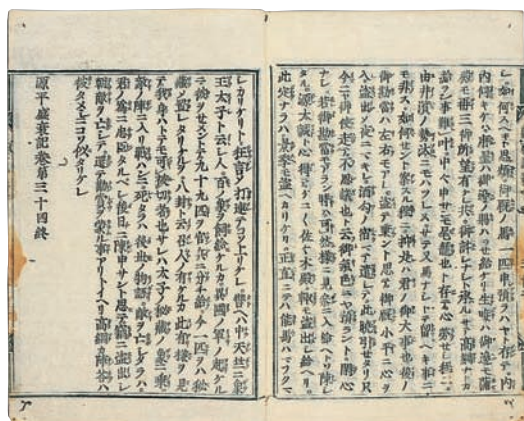
『源平盛衰記』は、『平家物語』の異本の一つとみられる。最初に古活字版で刊行され、全部で3種類が知られている。指定本は、元和寛永頃刊行と推定される古活字版を底本とし、片仮名の付訓を付した活字により作製された。片仮名の付訓活字は

珍しい。

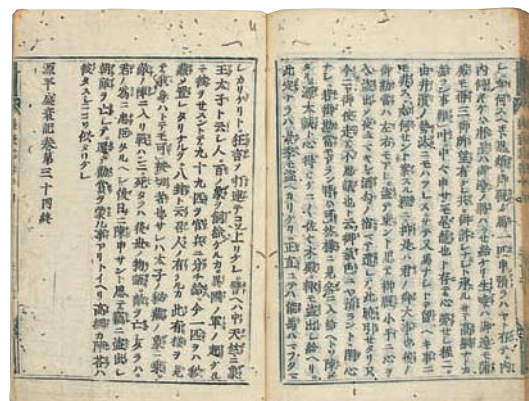
「乱れ版」とは後代の補配本ではなく、その版本が刊行される時に別種の版式のものを取り合わせたものをいう。本書は整版と古活字版の取り合わせである。

当館ではすでに、乱れ版『源平盛衰記』の全冊揃い（請求記号：WA7-258）（本誌544（2006年7月）号参照）を所蔵しており、指定本8と9を合わせ、欠はあるものの計3点を所蔵することとなった。この3点は、古活字版、整版ともにほとんどが同版であるが、一部に整版、古活字版の異同がある。

また、指定本9には、「藤本久兵衛開版 重家」と押捺された刊記があるが書肆については不詳。当館のほかの2本にも、また、天理図書館所蔵の3本にもこの刊記は見られない。



8 源平盛衰記 巻34 最終丁が整版



9 源平盛衰記 巻34 最終丁が古活字版



## 準貴重書

### 1 伊勢物語

<請求記号 WB1-20 >

〔慶長～寛永（1596～1644）刊 整版 上巻1冊（下巻欠）  
大きさ 28.7×20.3cm 書名は表紙中央墨書による 袋綴  
四針眼訂法 煤竹色原表紙（雲母摺り忍草模様か）左肩題籤  
剥落跡 色替わり料紙 古活字版『伊勢物語』第2種本イ版  
の覆刻整版 無辺無界 字高約22.4cm 每半葉9行 毎行  
18字内外 漢字平仮名交じり 挿絵25図 印記なし

慶長13（1608）年に中院通勝<sup>なかのいんみちかつ</sup>（1558-1610）が刊行させた古活字版『伊勢物語』（川瀬一馬『古活字版之研究 増補版』の分類では第2種本イ版）を版木に彫り覆刻したもの。第2種本イ版とはよく似ているが、版心に丁数が加えられ、挿絵の顔の表情なども異なる。

原装と見られる表紙が付され、褪色しているが、かすかに見える元の色と模様を慶長13年刊の既蔵本（第1種本イ版 請求記号：WA7-238）等と比較すると、慶長13年からそれほど遠くない時期、少なくとも慶長年間には印刷、装丁された可能性もある。

### 2 伊勢物語

<請求記号 WB1-21 >

〔慶長～寛永（1596～1644）刊 整版 2巻2冊 大きさ 27.3×19.4cm 書名は書題籤による 刊語「伊勢物語新刊就余需勘校仰京極黄 / 門一本之奥書云此物語之根源古人之説々 / 不同云々如今以天福年所被与孫女本正之 / 然而猶怨有訂校之遺欠也更圖書卷中 / 之趣分以為上下是雖不足動好女人情 / 聊為今悦稚童眼目而已 / 慶長戊申仲夏上浣 / 也足叟（墨書花押）」 袋綴 四針眼訂法 濃緑桐花雷紋繫ぎ空押し表紙 題籤（表紙左肩）はクリーム地に青緑麻の葉繫ぎ模様、「伊勢物語 上（下）」と墨書 色替わり料紙 改装本 古活字版『伊

勢物語』第2種本イ版の覆刻整版 無辺無界 字高約22.4cm 每半葉9行 毎行18字内外 漢字平仮名交じり 上巻挿絵25図、下巻挿絵24図 上巻第37丁補写 印記「橘順家蔵」[University of Bristol library.]



2 伊勢物語

前述の準貴重書1と同じ覆刻整版。本文には江戸時代の国学者らしい書体の書入れがある。

当館では、江戸初期頃刊とされている素紙刷りの覆刻整版（請求記号：い77）を所蔵している。今回指定の2本と既蔵本を比較してみると、2が印刷されたのは、1より少し後で既蔵本より早い時期であると考えられる。また覆刻整版をもとにしたとみられる絵入りの整版が寛永6年に刊行されていることから、寛永6年以前の刊行と推測される。「橘順 / 家蔵」とある蔵書印は、梅宮神社の神主橘順福（1770-1848）であろうか。その後、イギリスのブリストル大学で所蔵されたらしい。

（貴重書等指定委員会）

## 貴重書指定 伝わる知、伝える使命

今月号 26～31 ページの「新指定貴重書のご紹介」の記事はご覧になりましたか？

冒頭から「貴重書等指定委員会」や「国立国会図書館貴重書指定基準」など、何だか難しそうな言葉が…これって一体??

というわけで今回は、当館の貴重書等指定委員会（以下、委員会）についてご紹介します。

主題情報部長を委員長として、専門知識をもつ若干名の委員で構成される委員会は、当館の資料を貴重書・準貴重書等に指定するためのものです。また、その下に幹事が置かれ、委員を補佐します。

指定の基準は、例えば和書の場合「慶長以前（～1615年）に印刷（書写）されたもの」「元和以後（1615年～）に印刷（書写）され、伝本が少なく資料的価値があると認められるもの」など、年代や資料的価値がカギとなります。

そこで、あらかじめその点について調べておくのが幹事の役目。具体的には、紙や印刷の状態、蔵書印、書入れなどから成立年代を推定したり、その資料のもつ歴史を把握したり。時には、関西の図書館や寺院にまで出張し、その所蔵資料と比較してくることも…。

資料によって方法はさまざまですが、貴重書指定のために、こうした地道で厳密な検証が委員会の直前まで続けられます。



委員会の準備

そして委員会当日。調査に時間をかけただけに微に入り細をうがった報告と、舌鋒するどい質疑が飛び交い、予定時間を超える長丁場となった今回でしたが、無事にすべての資料が指定される次第となりました。

こうして、数百年にわたり多くの人の手を経てきた資料たちは、電子化されて貴重書画像データベース (<http://rarebook.ndl.go.jp/>) で公開されるとともに、保存に適した木製の貴重書庫に収められ、さらに数百年、あるいはそれ以上の年月を受け継がれてゆくのです。

そんな貴重書指定に携わることもまた、「貴重」な機会といえます。

（主題情報部古典籍課 かけだし幹事）

アジア学会 (AAS)・  
東亜図書館協会  
(CEAL) 2009 年年次  
総会および北米日本  
研究資料調整協議会  
(NCC) 会議

3月24日～29日、米国のシカゴにおいて標記会議が開催された。アジア関係の研究者とともに、北米の東アジア関係の図書館員が多数参加した。国立国会図書館からは山口和之総務部副部長企画課長事務取扱（当時）が出席した。

ASS・CEAL 年次総会では、20以上の東アジア資料に関連する図書館関係の会議が開催された。このうち、CEAL 日本資料委員会では、日本の学術情報について、インターネット上の情報を中心に、流通状況、欧米での需要、図書館での利用等について報告とパネルディスカッションが行われた。

また、NCC 会議では、来年創立 20 周年を迎える NCC の次の 10 年間の取組みをテーマとして、報告とパネルディスカッションが行われた。山口が、パネルディスカッションに参加するとともに、当館が今後目指すサービスと機能、対外協力などへの取組みについて報告を行った。

日本資料に関連したものとして、このほかに日本の社史や画像利用に関する会議、ワークショップなども開催された。また、併設された展示会場では日本の情報サービスベンダーの展示なども行われた。

第 16 回  
総合目録ネットワーク  
参加館フォーラム

3月19日、関西館第1研修室で標記フォーラムを開催した。このフォーラムは、当館からの事業報告や有識者の講演に加えて、参加館相互の情報交換・交流の場となっている。今回は都道府県立図書館、政令指定都市立図書館、市区町村立図書館等から、当館を含め 23 機関、64 名の参加を得た。

前半は、当館から、事業報告に加え、総合目録ネットワークのシステムリプレイスおよび総合目録ネットワークホームページの改訂についての報告を行った。後半は、根本彰東京大学大学院教授が「書誌コントロールの地域性と地域資料サービスの課題」と題して、また和中華雄関西館長（当時）が「デジタル時代における総合目録ネットワークの可能性」と題して講演を行った。質疑応答では、書誌コントロール、次世代総合目録に関する意見が多く寄せられた。

このフォーラムの記録集は、総合目録ネットワークホームページに掲載している（URL：<http://somoku.ndl.go.jp/>）。



## 法規の制定

### 【規程第1号】国立国会図書館職員定員規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日制定)

職員(館長、副館長、退職者、派遣国会職員、育児休業をしている職員および非常勤職員を除く)の定員を10人純減し、896人としたものである。平成21年4月1日から施行された。

### 【規程第2号】国立国会図書館組織規程の一部を改正する規程

#### 【規則第1号】国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則

#### 【規則第2号】国立国会図書館支部東洋文庫資料利用規則を廃止する規則

(いずれも平成21年4月1日制定)

支部東洋文庫の廃止、総務部人事課厚生室の設置及び統括主査の廃止に伴い、規程第2号は部局レベルの事務について、規則第1号は課レベルの事務について、それぞれ所要の規定を整備し、規則第2号は支部東洋文庫の資料の利用に係る規則を廃止したものである。いずれも平成21年4月1日から施行された。

### 【規程第3号】国立国会図書館職員倫理規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日制定)

国会職員の給与等に関する規程(昭和22年10月16日両院議長決定)の改正により、課長補佐級の国会職員の給料の特別調整額が業務調整手当に移行するに当たり、贈与等報告書の提出対象者である「課長補佐級以上の職員」を行政職給料表(一)5級以上のすべての職員としたものである。平成21年4月1日から施行された。

### 【規程第4号】国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程の一部を改正する規程

(平成21年4月10日制定)

地方交付税法等の一部を改正する法律(平成21年法律第10号)により、地方公営企業等金融機構の名称変更等が行われ、国立国会図書館法(昭和23年法律第5号)別表第二中地方公営企業等金融機構の項が改正されることに伴い、「地方公営企業等金融機構」を「地方公共団体金融機構」に改めるものである。平成21年6月1日から施行される。

## 法規の制定

### 【規則第3号】国立国会図書館学術文献録音テープ等利用規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日制定)

録音テープ等の利用者の拡大、貸出しの申込みに備えた録音テープ等の作成および録音テープ等を作成する学術文献の範囲の拡大を行うために、所要の規定を整備したものである。平成21年4月1日から施行された。

なお、これらの法規の施行による改正後の国立国会図書館職員定員規程（昭和33年国立国会図書館規程第1号）、国立国会図書館組織規程（平成14年国立国会図書館規程第2号）、国立国会図書館組織規則（平成14年国立国会図書館規則第1号）、国立国会図書館職員倫理規程（平成12年国立国会図書館規程第5号）、国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程（昭和24年国立国会図書館規程第3号）および国立国会図書館学術文献録音テープ等利用規則（昭和50年国立国会図書館規則第3号）は、当館ホームページ「国立国会図書館について」－「関係法規」（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws.html>）に掲載している。

## お知らせ

### 調べものに役立つWeb サービス 「リサーチ・ナビ」 の提供開始



「リサーチ・ナビ」トップ画面

5月11日に、調べものに役立つWeb サービス「リサーチ・ナビ」の提供を開始しました。

リサーチ・ナビは、テーマごとに調査のポイントや参考資料をまとめた「調べ方案内」を中心に、これまでホームページで提供してきたものや新規のものを含め、さまざまな情報源にご案内します。おもなコンテンツとして次のものがあります（★は今回新規に提供を開始したコンテンツ）。

#### ○便利な資料やWeb サイトの案内

調べ方案内

統計資料リファレンスガイド

#### ○専門室の作成する情報源

アジア情報室ホームページ

日本と世界の議会・法令・官庁資料

#### ○資料を詳しく探するためのデータベース

参考図書紹介

科学技術論文誌・会議録データベース（「日本科学技術関係逐次刊行物総覧をリニューアル」）

企業・団体リスト情報

日本人名情報索引（人文分野）データベース★

近現代日本政治関係人物文献目録

近代日本軍事関係文献目録★

目次データベース★

このほかミニ電子展示「本の万華鏡」として、小さなテーマ別に所蔵資料を紹介しています（本誌37ページ参照）。

#### ○URL <http://mnavi.ndl.go.jp/>

国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）

—「調べ方案内」—「リサーチ・ナビ」

#### ○お問い合わせ先

国立国会図書館 主題情報部参考企画課情報サービス第一係

電話 03(3581)2331(代表)



## お知らせ

### ミニ電子展示 「本の万華鏡」 の提供開始



5月11日に、当館ホームページの「リサーチ・ナビ」上で、ミニ電子展示「本の万華鏡」の提供を開始しました。これは平成20年に終了した常設展示（東京本館）にかわるものです。

「本の万華鏡」では、時事的なもの、身近で楽しいものなど、様々なテーマについて、国立国会図書館の蔵書を使ってご紹介していきます。解説とともに、一部の資料は、画像や全文の画像が見られるサイトへご案内します。また、過去155回に及ぶ常設展示のパンフレットと合わせて、ジャンル別に展示を探せるようになりました。

今後は、数か月ごとに新たな展示を追加していきます。テーマごとに様々な模様が展開する「本の万華鏡」を、のぞいてみてください。

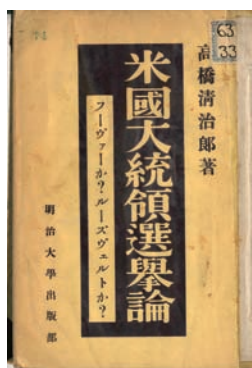
URL <http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

—電子展示会—ミニ電子展示「本の万華鏡」

※紹介した本の一冊や、その探し方をクローズアップする新コーナー「本の万華鏡ができるまで」を本誌に掲載予定です。

### 「本の万華鏡」第1回 「アメリカ大統領の歴史」 —あらためて知る220年—



「米國大統領選舉論：フーヴァーか？  
ルーズヴェルトか？」

高橋清治郎著 明治大学出版部 昭和7年  
<請求記号 631-33> 表紙

第1回 アメリカ大統領の歴史—あらためて知る220年

URL <http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/>

1月20日、バラク・H・オバマがアメリカ合衆国第44代大統領に就任し、アメリカ初の黒人大統領として世界中から注目を集めています。また今年、ジョージ・ワシントンが初代大統領に就任した1789年4月30日から数えて、220年にあたります。

「本の万華鏡」第1回では、アメリカ大統領について、当館の蔵書をもとに、3章に分けてわかりやすくその歴史を振り返ります。第1章では、4年に1度行われてきた大統領選挙に注目し、第2章では大統領自身の著作を紹介し、そして第3章では、日本を訪れた大統領についての報道や、ワシントンやリンカーンが登場する明治期の資料を取り上げます。様々な角度から本を通じて浮かび上がるアメリカ大統領の姿をお楽しみください。

## お知らせ

### 絵本ギャラリーで

『コードモノクニ』が検索できる  
ようになりました



『ゴチソウ』 岡本帰一 (画)  
9巻3号 1930年3月1日

5月5日こどもの日に、国際子ども図書館の電子展示会「絵本ギャラリー」で新たに【『コードモノクニ』掲載作品検索】の提供を開始しました。これは、大正11（1922）年に創刊された絵雑誌『コードモノクニ』をデジタル化し、インターネットを通じて提供する画像データベースです。現在、著作権保護期間が満了したことが確認された作品など約1,600画像を、タイトルや著者名で検索することができます。今後、画像を順次追加していく予定です。デジタル化にあたっては、大阪国際児童文学館などのご協力を得ました。

「絵本ギャラリー」は、絵本の発祥から20世紀までの発展の流れを、内外の貴重な絵本の画像や音声によりインターネット上で紹介するもので、現在8つのコンテンツがご覧になれます。

○ URL <http://www.kodomo.go.jp/gallery/>

国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>)

—「絵本ギャラリー」から【『コードモノクニ』掲載作品検索】を選択してください。

○ お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課

電話 03 (3827) 2053 (代表)

こちらをご覧ください



絵本ギャラリーでは「コードモノクニ—1920年代の日本 子どもたちを見つめた画家のまなざし」もご覧になれます。こちらは、『コードモノクニ』初期の10年間に掲載された約300枚の絵を、解説のほか朗読や童謡の音声とともに楽しめます。



「絵本ギャラリー」トップ画面

「『コードモノクニ』掲載作品検索」  
トップ画面



## お知らせ

### 関西館小展示第1回

### 「ダーウィン生誕200年、 『種の起源』刊行150年」



関西館では、今年度から、関西館の所蔵資料を中心とした小展示を定期的に行います。記念すべき第1回のテーマは「ダーウィン生誕200年、『種の起源』刊行150年」です。

ダーウィンと聞くと最初に思い浮かぶのは、やはり生物の進化に関する著作『種の起源』ではないでしょうか。今年はダーウィン（Charles Robert Darwin 1809-1882）の生誕から200年、『種の起源』の刊行から150年と、二重に記念の年にあたります。そこで、ダーウィンに関連する資料を取り揃え、ご紹介します。

展示資料は、ダーウィンの発表論文や当時の諷刺画、1950年代の中国語訳『種の起源』など、関西館で所蔵する外国雑誌やアジア言語資料のほか、一部の資料は東京本館から取り寄せています。

入場無料で、資料の大半が実際に手にとれるようになっています。ぜひご覧いただき、関西館で利用できる幅広い資料の一端を知っていただけると幸いです。



On the tendency of species to form "varieties; and on the perpetuation of varieties and species by natural means of selection"  
*Journal of the Proceedings of the Linnean Society of London. Zoology* vol.3 (1859), pp. 45-62.

<請求記号 Z53-C170 >

『種の起源』の基になった雑誌論文（書簡）。ダーウィンの自然選択説と、ダーウィンからエイサ・グレイへの書簡の要約、アルフレッド・ラッセル・ウォレスによる自然選択説が一つの論文としてまとめられている。



Observations on the parallel roads of "Glen Roy, and of other parts of Lochaber in Scotland, with an attempt to prove that they are of marine origin"  
*Philosophical Transactions of the Royal Society* vol.129 Part.I (1839), pp. 39-81.

<請求記号 Z53-A104 >

当館所蔵の中で最も古いダーウィンの雑誌論文。ビーグル号での航海から帰港後、3年が経過している。スコットランド地方のロイ渓谷が海底由来の地形であることを、観察に基づき説明している。

- 開催期間 5月21日（木）～6月16日（火）（日曜・祝日を除く）
- 開催時間 10:00～18:00
- 場 所 関西館 総合閲覧室
- 入 場 無料



## お知らせ

### 平成 21 年度の 図書館員を対象とする 研修計画



平成 20 年度レファレンス研修

本年度、国立国会図書館で実施する、図書館員を対象とする研修の概要をお知らせします（次ページ表）。

本年度実施する研修は、いずれも前回実施時に高い評価を受けた研修です。皆様からのお申込みをお待ちしています。

#### ○本年度予定している研修の内容

- ・「図書館員のための利用ガイダンス」を行い、当館の図書館へのサービスの基本的な利用方法を説明します。
- ・「科学技術情報研修」では、各資料の基本的な知識や基本的な調べ方の習得を目指すほか、主題情報の調べ方も取り上げる予定です。
- ・「レファレンス研修」は、講義と演習で構成し、レファレンスの効果的な方法と課題解決への考え方を学ぶ予定です。
- ・「児童文学連続講座」は、総合テーマを「いつ、何と出会うかー赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで（仮題）」とする予定です。

#### ○各研修の詳細・申込方法

各研修の実施日程や科目の詳細・申込方法などについては、決定次第、当館ホームページ「図書館員の方へ」－「図書館員の研修」（[http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/library\\_training\\_guide.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/library_training_guide.html)）に掲載します。

また、メールマガジン『図書館協力ニュース』でも、研修の案内を随時お知らせしますので、未登録の図書館、関心をおもちの図書館員の方はぜひご登録ください（当館ホームページ「図書館員の方へ」－「図書館へのお知らせ」から登録できます）。

## お知らせ

### 平成 21 年度研修一覧

研修名	実施時期（予定）/会場	対象および定員
資料保存研修	平成 21 年 7 月/東京本館	公共図書館職員、大学図書館職員および専門図書館職員。32 名。 次ページ参照
図書館員のための利用ガイダンス	平成 21 年 8 月/関西館	国内の公共・大学・専門の各図書館において、当館の図書館へのサービス（貸出し、複写、レファレンス）を利用する実務担当者。20 名。
科学技術情報研修	平成 21 年 10 月（2 日間） /関西館	公共図書館職員および大学図書館職員で科学技術関係情報に関する基礎的な知識の習得を目指す者。20 名。
アジア情報研修	平成 21 年 11 月（2 日間） /関西館	大学図書館、専門図書館および公共図書館等の職員で、アジアに関連する情報を扱う者。20 名。
児童文学連続講座 当館所蔵資料を使って	平成 21 年 11 月（2 日間） /国際子ども図書館	現在、図書館等において児童サービスに従事する者。60 名。
日本古典籍講習会	平成 22 年 1 月（3 日間） /東京本館等	日本の古典籍を所蔵する機関の職員で、現在古典籍を扱っている者。30 名。（国文学研究資料館と共催）
レファレンス研修	平成 22 年 2 月（2 日間） /東京本館	公共図書館職員および大学図書館職員でレファレンス業務担当者。20 名。
「レファレンス業務に係る研修」への講師派遣	未定	公共図書館および大学図書館職員等。各 20 名以上を想定。（当館職員が派遣先で講師を務める）

※このほか、インターネットを通じて受講できる遠隔研修を実施します。詳細は、当館ホームページ「図書館員の研修」、メールマガジン『図書館協力ニュース』等で、追ってお知らせいたします。

以下の研修は、各事業の参加館を対象として実施するものです。

国立国会図書館総合目録ネットワーク研修会（研修講師対象）	未定/関西館	都道府県立および政令指定都市立図書館中央館における国立国会図書館総合目録ネットワークについての研修担当者。40 名。
レファレンス協同データベース事業担当者研修会	年 2 回（各 1 日） /東京本館、関西館	レファレンス協同データベース事業参加館の実務担当者。各 40 名程度。

（関西館図書館協力課）



## お知らせ

### ■ 第13回資料保存研修

国立国会図書館では、国内の各種図書館等の職員の方を対象に、資料保存に関する基礎的な技術の習得を目的とし、次のとおり実技研修を実施します。参加費は無料です。

- テーマ あなたにもできる図書館資料の保護と補修  
ー簡易補修、表紙と本体をつなぐ修理などー
- 日時 平成21年7月16日(木)、7月17日(金)  
10:00～16:30(両日とも同じ内容です)
- 会場 国立国会図書館東京本館(東京都千代田区永田町1-10-1)
- 内容 講義と研修教材による実技指導
- 持ちもの エプロン、えんぴつ、カッターナイフ、定規、はさみ
- 定員 42名(各日21名)

1機関からのお申込みは1名までとし、申込み多数の場合は調整させていただきます。また、受講日についてもご希望にそえない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

#### ○お申込方法

電子メールで、①氏名、②所属機関、③所在地、④電話番号、⑤受講希望日(どちらでもよい場合は両方を書いてください)、⑥当館の遠隔研修「資料保存の基本的な考え方」受講経験の有無を明記して、6月30日(火)までに以下の申込先にお申し込みください(電子メールの使えない機関に限り、FAXでお申し込みください)。

#### ○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 収集書誌部資料保存課

電子メール hozonka@ndl.go.jp

FAX 03(3581)3291

電話 03(3506)3356(直通)

## お知らせ

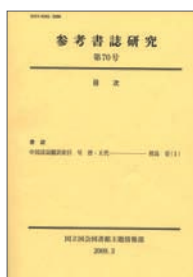
### ■ NDL-OPAC で 検索できる資料が 増えました

この4月までに、NDL-OPACで、映像資料の一部（平成元年から12年ごろにかけて当館で受け入れたVHSビデオなど）、以前に受け入れたテクニカルリポート\*の一部、小・中学用の学習参考書、原子炉設置（変更）許可申請書、加藤まこと展覧会図録コレクション\*\*、紙芝居・静止画などが検索できるようになっています。また、博士論文の一部などNDL-OPACにデータがない資料について、引き続きデータ整備の作業を進める予定です。

\*科学技術分野の研究成果報告書などのうち、おもに米国で刊行される、簡易な形態のもの

\*\*出版社に勤務していた加藤誠氏（1923 - 1987）のコレクションが寄贈されたもの

### ■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



参考書誌研究 第70号 A5 382頁 半年刊 6,300円

発売 日本図書館協会

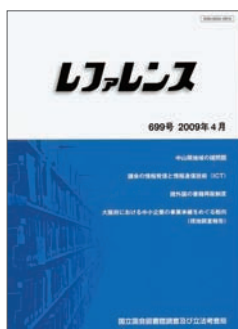
〈書誌〉

・中国詩詞翻訳索引 VI 唐・五代

※『参考書誌研究』は、図書館員のレファレンス業務や研究者の調査研究に役立つ専門書誌、資料研究等を掲載しています。次号以降は、5月から開始したインターネット上の情報案内サービス「リサーチ・ナビ」の広報誌としての役割が加わり、表紙デザインも一新します。どうぞご期待ください。

レファレンス 699号 A4 84頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・中山間地域の諸問題
- ・議会の情報発信と情報通信技術（ICT）
- ・諸外国の書籍再販制度
- ・大阪府における中小企業の事業承継をめぐる動向



入手のお問い合わせ

(社)日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812





5月25日は「納本制度の日」です

東京本館書庫

納本制度とは、図書等の出版物を公的機関に納入することを発行者等に義務づける制度のことです。日本では、国立国会図書館がこの制度の運用を担っています。昭和23年5月25日に納本の受付が開始されたことにちなんで、毎年5月25日を「納本制度の日」としています。

納入された出版物は、あらゆる人々に広く利用していただくとともに、文化的財産として永く大切に保存されます。

日本国民の知的活動の記録を後世に継承するため、納本にご協力をお願いいたします。



納入された資料（毎週約1万2,000点）

100年後もよみたい 

国立国会図書館は、納本をお待ちしています。

## C O N T E N T S

- 02 Book of the month - from NDL collections  
Pop-up and movable books by Lothar Meggendorfer: elaborate work with humor
- 04 Talks with the Librarian of NDL (8)  
Dr.Haruki Ii, Prof.E. of Osaka University  
Classics and the present
- 11 Services developed by the British Library to support entrepreneurs and small business development  
- from a lecture by Mr. Nigel Spencer, Research & Business Development Manager of the British Library
- 16 Toyo Bunko (Oriental Library) - history and collections
- 20 Learning in NDL (1)  
How to search information on Korea
- 26 Materials recently designated as rare books  
- 44<sup>th</sup> committee on designation of rare books
- 18 <Books not commercially available>  
○ *Machikado bijutsu-kan ato @ tsuchizawa: advance: katarogu. 3rd (2007)*  
○ *100-nen no ayumi, tsushi / bumonshi*
- 32 <Tidbits of information on NDL>  
Designation of rare books - knowledge transmitted and mission to hand it down
- 33 <NDL NEWS>  
○ 2009 annual meeting of the Association for Asian Studies (AAS) and Council on East Asian Libraries (CEAL), and annual open meeting of the North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (NCC)  
○ 16<sup>th</sup> forum for libraries participating in the National Union Catalog Network  
○ Laws established
- 36 <Announcements>  
○ Launch of the RESEARCH NAVI - useful web service for searching  
○ New series of small electronic exhibitions "Kaleidoscope of books"  
○ Kaleidoscope of books (1) History of the President of the United States - 220 years to learn anew  
○ "Kodomo no Kuni" now searchable on the "Kodomo no Kuni magazine article search"  
○ Small exhibition in the Kansai-kan (1) 200<sup>th</sup> anniversary of Charles Darwin's birth and 150<sup>th</sup> anniversary of the publication of "The origin of species"  
○ Training programs for librarians in FY2009  
○ 13<sup>th</sup> Preservation and Conservation Training Program  
○ New bibliographic data added to the NDL-OPAC by retrospective cataloging  
○ Book notice - publications from NDL

## 国立国会図書館月報

平成 21 年 5 月号 (No.578)

平成 21 年 5 月 20 日発行 定価 525 円  
(本体 500 円)

発行所 国立国会図書館  
編集責任者 網野光明  
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
F A X 03 (3597) 5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp

発売 社団法人日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03 (3523) 0812 (販売)  
F A X 03 (3523) 0842  
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社エポ

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き取りして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) - 「刊行物」 - 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



「横濱鈍宅之図」から 部分  
五雲亭貞秀画〔山口屋藤兵衛〕〔文久1(1861)〕  
大判錦絵(37×25cm)3枚続き  
(『古登久爾婦里 下』所収〈請求記号 亥二-92〉)

## 国立国会図書館月報

平成21年5月20日発行 (毎月1回20日発行)  
(5月号通巻578号)

発売：社団法人日本図書館協会 定価525円(本体500円)